

UPS 管理システム

BPSPOC-Ⅱ

COMBINATION

ユーザガイド

TMR-06885-001
NEC フィールディング

※ Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※ その他の製品名、社名は各社の登録商標または商標です。

※ Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

おことわり

- (1) 本ソフトウェアおよび本書の一部または全部を、許可なく複製、転載することは、かたくお断りいたします。
- (2) 本製品の内容につきましては万全を期して検査を行っておりますが、万一、お気づきの点がございましたら、当社までご連絡ください。
- (3) 本製品の内容は、予告なく変更される場合があります。
- (4) 本製品の運用に際しては、本取扱説明書をよくお読みになって、機能を理解した上で御使用ください。本製品を使用したことによる結果につきましては、責任を負いかねますので、ご了承ください。

目次

1. はじめに	1
1.1 概要	1
1.2 管理対象となる装置	1
1.3 UPS管理システムの主な機能	2
1.4 動作環境	3
2. システム構成	5
2.1 ハードウェア	5
2.2 ソフトウェア	5
2.3 システム構成に必要な条件	5
2.3.1 ネットワーク環境	5
2.3.2 運用条件	6
2.4 制限事項	6
3. インストール	7
3.1 インストールを行う前に	7
3.1.1 UPS／電源管理ユニットの接続	7
3.1.2 PCの状態確認	7
3.2 インストール	8
4. システム構成例と設定例	11
4.1 構成例	11
4.2 設定例	12
5. 操作方法	14
5.1 起動	14
5.2 ユーザモードの切り替え	18
5.3 UPS／電源管理ユニットとのアカウント認証	19
5.4 管理対象装置の登録	22

5.4.1 システムグループ	22
5.4.2 UPS／電源管理ユニット	23
5.5 UPSに接続する装置の登録	26
5.5.1 P C	26
5.5.2 W S	30
5.5.3 コンピュータ以外の装置	39
5.6 電源管理ユニットに接続する装置の登録	41
5.6.1 P C	41
5.6.2 W S	44
5.6.3 コンピュータ以外の装置	48
5.7 UPS／電源管理ユニットの設定変更	50
5.7.1 設定操作	50
5.7.2 設定項目	51
5.8 UPS／電源管理ユニットの制御	77
5.8.1 概要	77
5.8.2 UPS起動手順	77
5.8.3 UPS停止手順	78
5.8.4 電源管理ユニット出力オン手順	80
5.8.5 電源管理ユニット出力オフ手順	81
5.8.6 バッテリチェック開始手順	82
5.8.7 バッテリチェック中止手順	83
5.9 UPS／電源管理ユニットの情報表示	84
5.9.1 UPSの状態・計測値のリアルタイム表示	84
5.9.2 UPSの状態・計測値の履歴表示	86
5.9.3 UPS／電源管理ユニット内部に記録されたログの表示	87
5.9.4 コンピュータ内部に記録されたログの表示	87
5.9.5 時計設定	88
5.10 UPS／電源管理ユニットのプログラム更新	89
5.10.1 起動	89
5.10.2 更新ファイルの設定	90
5.10.3 更新条件を設定する（更新設定）	91

5.10.4 更新を開始する	92
5.10.5 更新を中止する	93
5.10.6 プログラム更新ツールを終了する	94
5.10.7 更新対象装置の登録.....	94
5.10.8 更新対象装置の削除.....	95
5.11 複数UPS／電源管理ユニットの操作	96
5.11.1 UPS配下の複数コンピュータへの一括設定例	96
5.11.2 グループ配下の複数UPS、電源管理ユニットへの一括設定例	99
5.11.3 特定UPSおよび配下への一括設定例	102
5.11.4 複数UPSの一括制御	103
付録A 動作シーケンス	105
付録B UPS（LANインタフェースカード）／電源管理ユニットのIPアドレス変更方法 ..	110
付録C 一般ユーザモードの制限事項.....	112
付録D 使用プロトコルおよびサーバポート	113
付録E Windowsファイアウォール使用時の注意事項	114
付録F 制約事項	116

1. はじめに

1.1 概要

BPSPOC-Ⅱ COMBINATION（統合管理ツール）は、ネットワーク対応された UPS（LAN インタフェースカード）、UPS（UPS サーバ）、BP Power Controller（ネットワーク機能対応電源管理装置。以下、電源管理ユニットという）および、UPS や電源管理ユニットより電源供給されている装置（コンピュータなど）を一括管理するツールです。

1.2 管理対象となる装置

（1）UPS（LAN インタフェースカード）

当社 UPS に当社 LAN インタフェースカードを装着することで、ネットワーク対応することが可能になります。

（2）UPS（UPS サーバ）

コンピュータに BPSPOC-Ⅱ（別売）をインストールし、このコンピュータと UPS をシリアルケーブル（シリアル接続、または接点接続）にて接続し、設定を行うことで UPS サーバを構成できます。UPS サーバコンピュータがネットワーク対応可能な場合には、UPS サーバは管理対象装置となります。

（3）電源管理ユニット（ネットワーク機能対応電源管理装置）

当社の電源管理ユニットを使用すると出力コンセント毎のオン／オフ／リセット制御、シャットダウン制御が行えます。

（4）電源装置と接続する装置

PC、WS およびその他の装置を上記 UPS および電源管理ユニットと接続設定することにより制御対象となります。

本書では、本システムに対応している Windows OS を搭載したコンピュータを「PC」、Linux を含めた主要 UNIX-OS を搭載したコンピュータを「WS」と呼んで区別します。両方を指す場合は、単に「コンピュータ」と呼びます。

文中に LAN インタフェースカードおよび Network Power Manager という表現が出てきた場合は、BPWEB BOARD および BP Power Controller と読み替えてください。

1.3 UPS 管理システムの主な機能

(1) 集中管理

1 台のコンピュータから、BPSPOC-II に対応した全ての UPS、電源管理ユニットおよび、これらに接続されたコンピュータを管理できます。そのため、UPS や電源管理ユニットまで足を運ぶ必要がありません。以下に示す作業、および関連する設定は、全て統合管理ツールにより遠隔から実行できます。

また、UPS や電源管理ユニットはネットワークからのアクセスに対して**ユーザ名**および**パスワード**で認証を行いますので、不正なアクセスを防止できます。

本書では BPSPOC-II に対応した UPS を「**UPS**」、ネットワーク機能対応電源管理装置 BP Power Controller を「**電源管理ユニット**」と呼びます。

(2) スケジュール設定

UPS や電源管理ユニットの出力毎に起動／停止のスケジュールを設定することにより、コンピュータの起動／停止を自動的に行うことができます。スケジュールの情報は UPS および電源管理ユニットが保持しています。

(3) リモートからの起動停止制御

OS の異常などによりコンピュータに対するリモートアクセスができない場合や、緊急の場合などに UPS の起動／停止や電源管理ユニットの出力コンセント毎のオン／オフ／リセットを行うことができます。

(4) UPS の状態表示

UPS の各種状態を表やグラフで表示します。

電源管理ユニットに UPS がシリアル接続されている場合は、電源管理ユニットにアクセスすることで UPS の状態を表示することができます。

(5) プログラムのリモート更新

新しい機能やプロトコルに迅速に対応できるよう、LAN インタフェースカードや電源管理ユニットに内蔵されているプログラムをネットワーク経由でリモート更新できます。

1.4 動作環境

以下に、BPSPOC-Ⅱ COMBINATION をセットアップし、動作させるために必要な最小限の環境を示します。

コンピュータ本体：AT互換機

CPU：PentiumⅢ700MHz 以上

メモリ：256Mバイト以上

ディスク容量：20Mバイト以上の空き容量

ディスプレイ：800×600ドット以上表示可能なディスプレイ

対応OS^(※1)：Windows 2000^(※2)

Professional
Server
Advanced Server

Windows XP

Professional
Home Edition
Professional x64 Edition

Windows Server 2003

Standard Edition
Enterprise Edition
Standard x64 Edition
Enterprise x64 Edition
Enterprise Edition for Itanium-based systems

Windows Server 2003 R2

Standard Edition
Enterprise Edition
Standard x64 Edition
Enterprise x64 Edition

Windows Vista

Business Edition
Ultimate Edition
Enterprise Edition
Business 64-bit Edition
Ultimate 64-bit Edition
Enterprise 64-bit Edition

Windows Server 2008^(※3)^(※4)

Standard
Enterprise

Windows Web Server 2008^(※3)^(※4)

はじめに

Windows 7 ^(※3)

Professional
Ultimate
Enterprise

Windows Server 2008 R2 ^(※4)

Standard
Enterprise

Windows Web Server 2008 R2 ^(※4)

(※1) 日本語版がインストールされている必要があります。

(※2) **Service Pack 3** 以上

(※3) x86 版, x64 版に対応しています。

(※4) **Server Core** は対象外です。

BPSPOC-Ⅱ COMBINATION をインストールする場合、PCの管理者特権が必要です。

2. システム構成

以下に、UPS 管理システムを構築するためのシステム構成を示します。

2.1 ハードウェア

統合管理ツールがインストール可能なパーソナルコンピュータ（「1.4 動作環境」を参照）

2.2 ソフトウェア

BPSPOC-Ⅱ COMBINATION

2.3 システム構成に必要な条件

2.3.1 ネットワーク環境

- ・UPS および電源管理ユニットとコンピュータ間がTCP/IPにより、通信できる必要があります。
- ・ネットワーク名を使用する場合、DNS などによりIPアドレスに変換できる必要があります。
- ・UPS および電源管理ユニットのIPアドレスをDHCPで割り当てる場合は、以下の方法でネットワーク名がIPアドレスに変換できる必要があります。

UPS および電源管理ユニットのMACアドレスに対応したIPアドレスをDHCPサーバに登録し、IPアドレスと対応するネットワーク名をDNSサーバ、WINSサーバ、Hosts ファイルの何れかに登録する。

- ・NAT/IPマスカレードを使用しているネットワーク環境におきましては、動作を保障しておりません。

2.3.2 運用条件

- ・ UPS（LAN インタフェースカード）の状態・計測値履歴を取得するには、UPS に BPSPOC-Ⅱ をインストールした PC が 1 台以上登録されている必要があります。
- ・ UPS（LAN インタフェースカード）の IP アドレスを変更すると LAN インタフェースカードが再起動します。再起動にかかる時間はおよそ 60 秒程度です。その間 UPS の通信が切断されるため通信異常が発生することがあります。また、その際一切の設定、監視、制御ができません。ただし、LAN インタフェースカードが再起動しても UPS 本体の動作には何も影響はありません。
- ・ 統合管理ツールでは、インストール先の PC のシャットダウン制御は行えません。コンピュータをシャットダウンする場合は、BPSPOC-Ⅱ のインストールが別途必要になります。

2.4 制限事項

- ・ 統合管理ツールで管理できる装置（UPS および電源管理ユニットの合計）は、最大 1000 台です。
- ・ 1 台の UPS（LAN インタフェースカード）、UPS（UPS サーバ）または、電源管理ユニットを同時に管理できるソフトウェア（統合管理ツール、BPSPOC-Ⅱ または、Web ブラウザによる管理）は、5 つまでです。それ以上の同時管理はできません。
- ・ 1 台の UPS（LAN インタフェースカード）、UPS（UPS サーバ）または、電源管理ユニットが同時に通信できるのは、1 つの統合管理ツール、BPSPOC-Ⅱ または、Web ブラウザによるアクセスです。複数が同時にアクセスした場合通信に失敗することがあります。その場合、再度アクセスしてください。
- ・ 統合管理ツールと管理対象装置間にファイアウォールが設定されている場合には、その間の使用ポートを遮断しないでください。使用ポートについては、「付録 D 使用プロトコルおよびサーバポート」を参照してください。
- ・ Windows のゲストアカウントでの統合管理ツールの起動は出来ません。

3. インストール

3.1 インストールを行う前に

注意

- LAN インタフェースカードの UPS への取り付けについては BPWEB BOARD 取扱説明書をご覧ください。
- 電源管理ユニットの設置については、BP Power Controller の取扱説明書をご覧ください。
- UPS サーバ（BPSPOC-Ⅱ）のインストールおよび設定については、BPSPOC-Ⅱ の取扱説明書をご覧ください。

3.1.1 UPS／電源管理ユニットの接続

管理する UPS（LAN インターフェースカード／UPS サーバ（ネットワーク環境を使用するに設定された場合のみ））または、電源管理ユニットが LAN に接続されていることを確認してください。

3.1.2 PCの状態確認

BPSPOC-Ⅱ COMBINATION のインストールの前に、以下の項目を確認してください。

- ① インストール時には、一時作成ファイル等により 20MB 程度の容量が必要です。ディスクの容量を十分確保してインストールを実行してください。
- ② SQL サーバなどの DBMS やロータスノーツがセットアップされている場合は、インストールが完了するまで、それらのアプリケーションのサービスを停止してください。

※各アプリケーションの停止手順は、アプリケーションのマニュアルを参照してください。

3.2 インストール

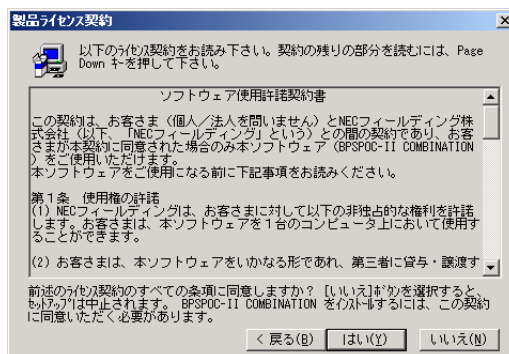
- (1) BPSPOC-II COMBINATION のCD をCD-ROM ドライブに挿入します。
- (2) タスクバーより [スタート] - [ファイル名を指定して実行] メニューをクリックします。
- (3) [名前]ボックスに、BPSPOC-II COMBINATION のCDがあるドライブ名、およびsetupを入力します。

例) **f:\setup** (CD-ROM ドライブを f ドライブとした場合)

- (4) [OK] ボタンをクリックすると [ようこそ] ダイアログボックスが表示されます。



- (5) [次へ] ボタンをクリックすると「製品ライセンス契約」ダイアログボックスが表示されます。

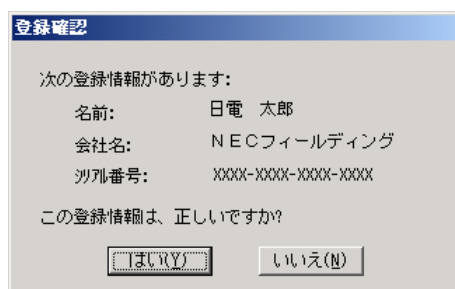


インストール

- (6) 「はい」 ボタンをクリックすると「ユーザの情報」ダイアログボックスが表示されます。名前、会社名、シリアル番号を入力してください。シリアル番号は、CD ケースの裏側に貼られています。



- (7) 「次へ」 ボタンをクリックすると「登録確認」ダイアログボックスが表示されます。内容を確認し、正しい場合は「はい (Y)」 ボタン、修正する場合は「いいえ (N)」 ボタンをクリックしてください。

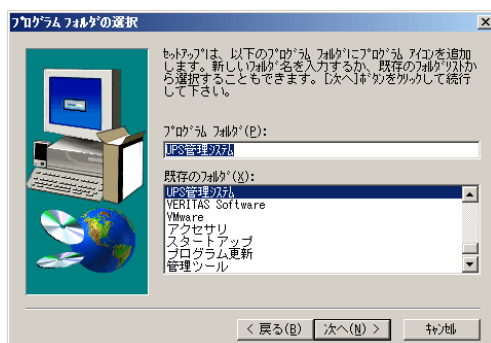


- (8) 「はい」 ボタンをクリックすると「インストール先の選択」ダイアログボックスが表示されます。インストール先を変更する場合は「参照」 ボタンをクリックして、インストール先のディレクトリを変更してください。



インストール

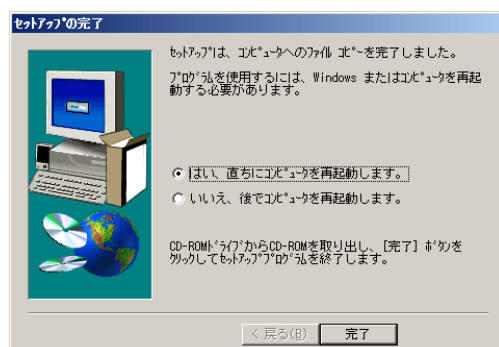
- (9) [次へ] ボタンをクリックすると[プログラムフォルダの選択] ダイアログボックスが表示されます。必要ならばフォルダ名を変更してください。



- (10) [次へ] ボタンをクリックすると[ファイルコピーの開始] ダイアログボックスが表示されます。設定内容を確認してください。



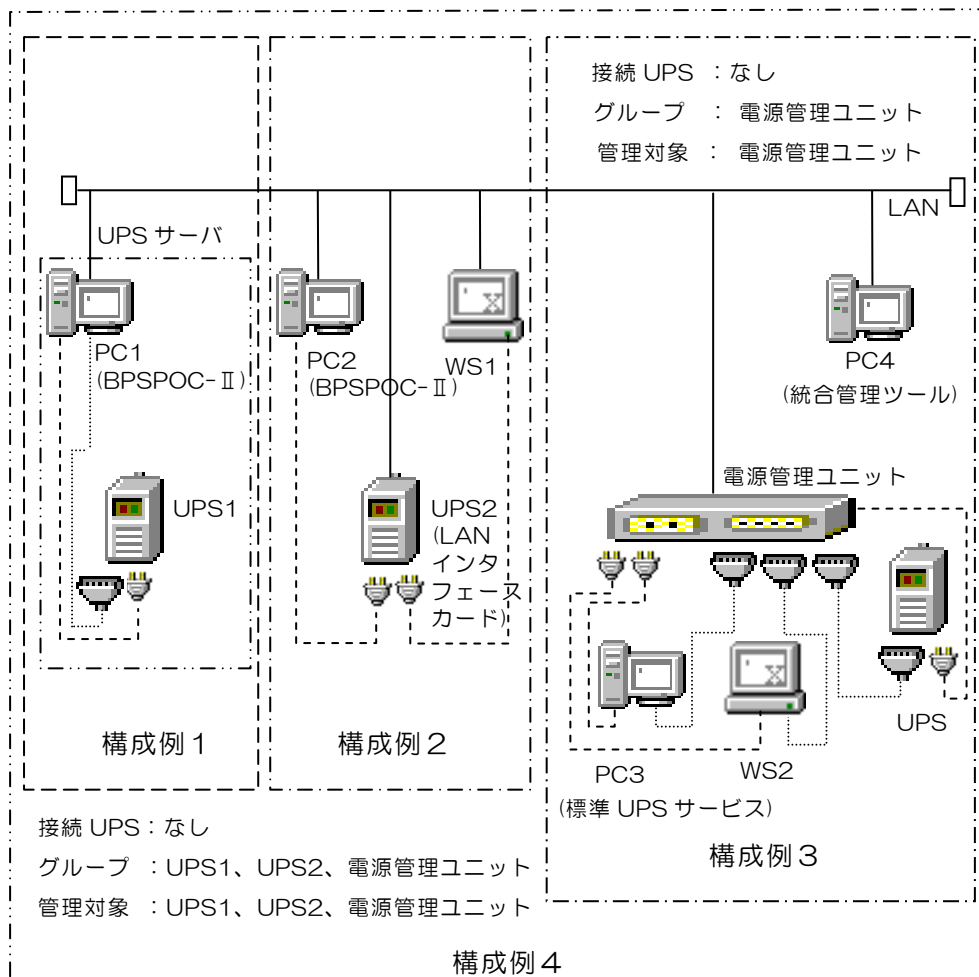
- (11) [次へ] ボタンをクリックするとPCへプログラムファイルのコピーを開始します。コピーが終了すると[セットアップの完了] ダイアログボックスが表示されます。



- (12) [完了] ボタンをクリックしてPCの再起動が完了するとBPSPOC-II COMBINATIONのインストールは完了です。

4. システム構成例と設定例

4.1 構成例



注意

LAN 接続 : —
シリアル接続 :
電源接続 : - - - -

4.2 設定例

(1) 構成例1 (UPS サーバ構成のPCをシャットダウンする)

構成例 1 は UPS (UPS サーバ) を構成している PC をシャットダウンします。

[設定手順]

BPSPOC-Ⅱ の取扱説明書を参照してください。

(2) 構成例2 (LAN 接続によるWSをシャットダウンする)

構成例 2 は PC と WS が同一の UPS から電源の供給をされる場合で、ネットワーク経由でシャットダウンします。

[設定手順]

BPSPOC-Ⅱ の取扱説明書を参照してください。

(3) 構成例3 (電源管理ユニットからPCとWSをシャットダウンする)

構成例 3 は電源管理ユニットから電源の供給をされる PC および WS をシャットダウンします。電源管理ユニットを統合管理ツールで管理します。

〔設定手順〕

- ① 電源管理ユニットのネットワーク設定を行います。（電源管理ユニットの取扱説明書を参照）
- ② PC 4および電源管理ユニットをLANへ接続します。
- ③ PC 3、WS 2のシリアルケーブルと電源ケーブルを電源管理ユニットに接続し、電源管理ユニットの電源ケーブルをUPSへ接続します。（電源管理ユニットの取扱説明書を参照）
- ④ PC 4に統合管理ツールをインストールします。（「3. インストール」を参照）
- ⑤ 統合管理ツールの「グループ」に電源管理ユニットを登録し、電源管理ユニットを管理できるようにします。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）
- ⑥ 統合管理ツールから電源管理ユニットにPC 3（接点接続）を登録します。（「5.6.1 PC」を参照）
- ⑦ PC 3（Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003）の「標準UPSサービス」を開始させます。
- ⑧ 統合管理ツールから電源管理ユニットにWS 2（WS（ログイン接続））を登録します。（「5.6.2 WS」を参照）
- ⑨ WS 2のスクリプト設定を行います。（「5.5.2（4）スクリプトの設定」を参照）
- ⑩ 必要に応じて「停電確認時間」、「シャットダウン遅延時間」、「UPS自動停止時間」など変更します。（「5.7.2（3）UPS／電源管理ユニット毎に独立して設定する項目一覧」を参照）
- ⑪ UPS 3、電源管理ユニット、PC 3およびWS 2との接続確認を行います。（電源管理ユニットの取扱説明書を参照）

（4）構成例4（UPS および電源管理ユニットを一括管理する）

構成例4は統合管理ツールから複数のUPS および電源管理ユニットを一括管理します。

〔設定手順〕

- ① 構成例1，2，3を構成します。
- ② PC 4の統合管理ツールの「グループ」にUPS 1、UPS 2および電源管理ユニットを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）
- ③ 必要に応じてUPS 1、UPS 2、電源管理ユニットの設定および状態を管理します。

5. 操作方法

情報

統合管理ツールはオンラインヘルプに対応しています。画面毎の詳細な操作内容については、オンラインヘルプをご覧ください。

5.1 起動

- (1) PCへログオンしてください。

情報

PCへログオンしたアカウントの環境で統合管理ツールが実行可能です。ただし、「接続UPS」配下の情報は共通になります。

- (2) デスクトップ画面のタスクバー上の[スタート]－[プログラム]－[UPS管理システム]から[BPSPOC-II COMBINATION]をクリックしてください。

情報

Windows Vista以降のOSで「プログラム更新」の機能を使用する場合は、[BPSPOC-II COMBINATION]を右クリックし、「管理者として実行」を選択して起動してください。
詳細は「付録F 制約事項」の「プログラム更新について」を参照してください。

- (3) 起動モード画面が表示されますので統合管理ツールの起動方法を選択してください。
([起動時にこの画面を表示]がチェックされていない場合は表示されません。)



① ユーザモード

ユーザモード（一般ユーザ／管理者）を切り替えることにより、セキュリティ管理を実現します。それぞれのモードの違いを以下に示します。

ユーザモード	パスワード 要否	使用できる機能の制限
一般ユーザ	否	編集機能、設定変更および制御機能などは不可 ^(注1)
管理者	要 ^(注2)	制約なし

(注1) 機能詳細は、「付録C 一般ユーザモードの制限事項」を参照。

(注2) 管理対象装置(UPS/電源管理ユニット)登録時とは別のパスワードです。

② 表示更新モード

ネットワーク上のトラフィックを極力小さくしたいため、必要な時以外は、通信をさせたくない場合があります。このような場合を考慮して、表示更新モードを選択できるようになっています。それぞれのモードの違いを以下に示します。

表示更新モード	機能
自動	管理対象装置と常時セッションを確立しておき、状態変化をリアルタイムに受信して表示する。ただし、アカウント認証異常時は、セッション確立できないため、一定間隔で状態を取得する。
手動	起動時に最新状態を取得するが、それ以降は、ユーザからの要求がない限り、何もしない。

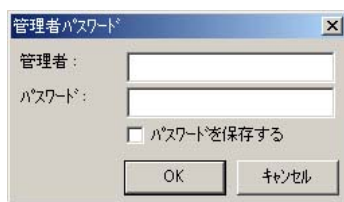
注意

〔手動〕選択時は、管理対象装置の状態が変化しても、自動的に画面に反映されません。画面に状態を反映させるためには、メニューバーの[表示]―[この配下から情報を更新]、または[最新の情報に更新]を選択してください。

③ 起動時にこの画面を表示

このチェックボックスがチェックされていると、起動時に本画面が表示されます。チェックを外すと、本画面は表示されず、起動モードの設定内容に従って起動します。設定内容を変更するには、メニューバーの[オプション]―[起動モード] をクリックして行ってください。

- (4) 管理者モードを選択した場合、管理者の認証が必要なおき（パスワードを保存していない場合）は、[管理者パスワード] ダイアログボックスが表示されます。



情報

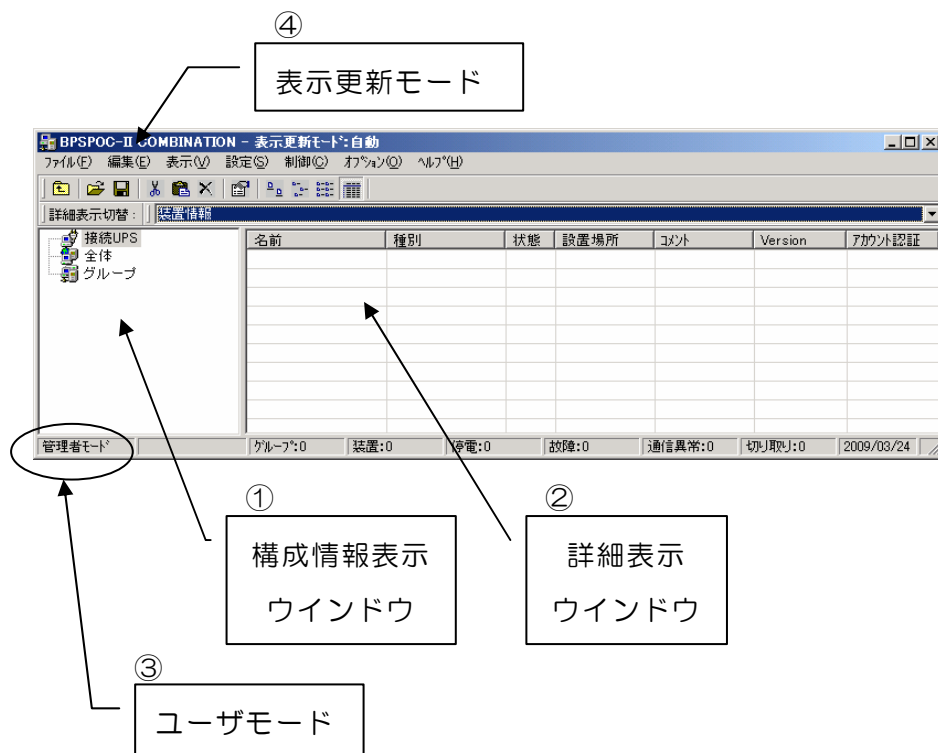
出荷時の管理者アカウントは

管理者名： admin （大文字小文字を区別しません）

パスワード： Admin （大文字小文字を区別します）

となっております。

- (5) 起動モードの設定内容により、以下のようなメインウィンドウが表示されます。



① 構成情報表示ウィンドウ

構成情報表示ウィンドウには、この統合管理ツールで管理されるUPSおよび、グループを示すフォルダが表示されます。基本となるフォルダおよび内容を以下に示します。

基本フォルダ	グループの意味
接続 UPS	BPSPOC-Ⅱがインストールされ接続 UPS が設定されている場合、その UPS を表示します。
全体	この統合管理ツールで管理している全ての UPS、電源管理ユニットおよび、その他の装置を表示します。
グループ	管理されている全ての UPS、電源管理ユニットおよび、その他の装置をグループ単位で階層化して表示します。管理対象の装置は、この配下に登録していきます。

② 詳細表示ウインドウ

詳細表示ウインドウには、構成情報表示ウインドウで選択したグループ、UPS および電源管理ユニットに含まれる UPS、電源管理ユニット、P C、W S および、その他の装置の情報を表示します。

③ ユーザモード

現在選択されているユーザモード（一般ユーザ／管理者）を表示します。

ユーザモードを切り替えるには、「5.2 ユーザモードの切り替え」を参照してください。

④ 表示更新モード

現在動作中の表示更新モード（自動／手動）を表示します。

表示更新モードを切り替えるには、メニューバーの［オプション］－［起動モード］をクリックして、設定内容を変更後、統合管理ツールを再起動してください。

情報

- UPS と P C との接続情報（設定情報）は対象となる UPS および P C に保存されます。
- UPS と W S との接続情報（設定情報）は対象となる UPS に保存されます。
- UPS と「その他の装置」との接続情報（設定情報）は対象となる UPS に保存されます。
- 統合管理ツールの管理対象となる UPS の構成情報（グループ情報）は統合管理ツール内部に保存されます。

5.2 ユーザモードの切り替え

[一般ユーザ]と[管理者]の2つのユーザモードがあります。

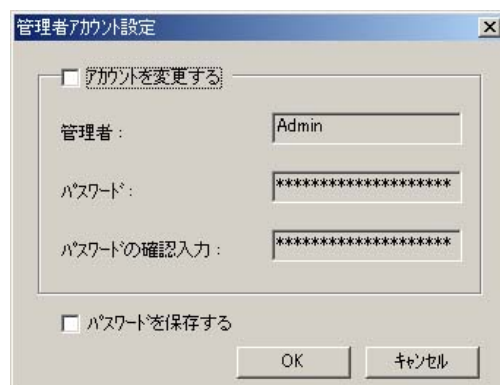
一般ユーザは、編集機能、設定変更および制御機能が使用できないなどの制限があります。（詳細は、「付録C 一般ユーザモードの制限事項」を参照してください。） 管理者は、全ての機能が使用できます。

これらのユーザモードを切り替えることにより、セキュリティ管理を実現しています。

- (1) メニューバーの[オプション]－[ユーザ切替]をクリックすると、現在使用中のユーザモード（一般ユーザから管理者へ、管理者から一般ユーザへ）を切り替えます。一般ユーザから管理者へ切り替える際、管理者パスワードが保存されていない場合、[管理者パスワード]ダイアログボックスが表示されます。



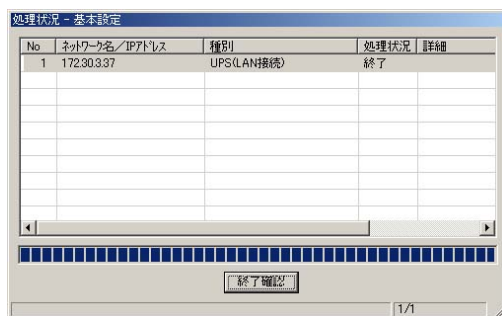
- (2) 管理者モードの場合、メニューバーの[オプション]－[管理者アカウント設定]をクリックすると、管理者のアカウントを変更することができます。



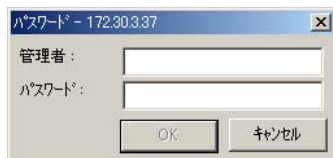
5.3 UPS／電源管理ユニットとのアカウント認証

統合管理ツールを利用してPCの登録や各種設定を行う場合は、UPS および電源管理ユニットの設定情報を更新する必要があります。その場合、UPS および電源管理ユニットはアカウントの認証を行います。

- (1) 設定中は、[処理状況] ダイアログボックスが表示されます。



- (2) アカウント認証が必要な場合（管理対象装置を登録する場合、保持しているパスワードが異なる場合等）は、[パスワード] ダイアログボックスが表示されます。



- (3) 管理者名、およびパスワードを入力してください。一度、アカウント認証を行うと、以後、UPS および電源管理ユニットへのアクセス時は内部的に保持しているアカウント情報を利用して自動的に認証を行います。

情報

出荷時のアカウントは

UPS の場合

管理者名： upsadmin （大文字小文字を区別しません）

パスワード： UpsAdmin （大文字小文字を区別します）

電源管理ユニットの場合

管理者名： mtadmin （大文字小文字を区別しません）

パスワード： MtAdmin （大文字小文字を区別します）

となっております。

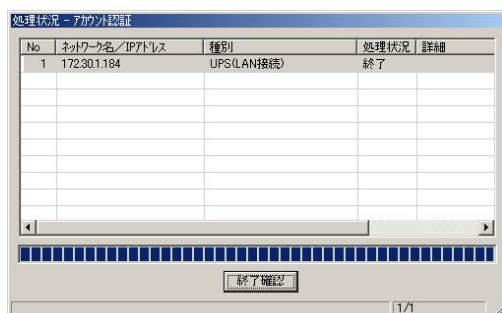
- （４） アカウント情報が本ツール以外の別ツール（Webブラウザ等）から変更された場合、本ツールで内部的に保持しているアカウント情報と管理対象装置のアカウント情報が一致しなくなります。この場合、ステータスバー上にアカウント異常件数が表示されます。



アカウント異常件数

アカウント異常装置は、
アカウント認証欄に異常と表示されます

- (5) ステータスバー上にアカウント異常件数が表示されている場合、構成情報表示ウインドウの [グループ] 配下からアカウント認証欄が[異常]と表示されているUPS または電源管理ユニットをクリックしてください。
- (6) メニューバーの [設定] - [アカウント認証] をクリックすると、再度、アカウント認証を行います。



5.4 管理対象装置の登録

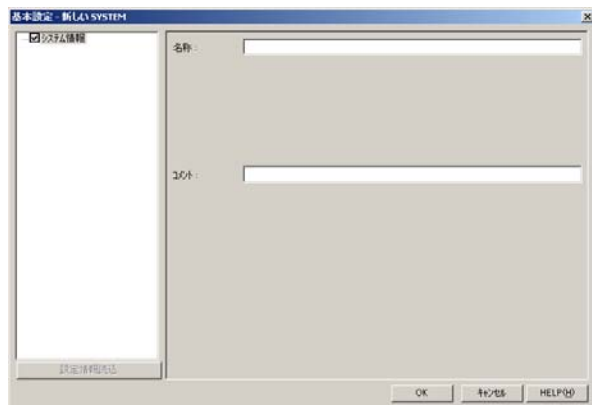
5.4.1 システムグループ

UPS および電源管理ユニットをグループにまとめておくことで、複数の UPS および電源管理ユニットに対して同一の設定や制御を一括して行うことができます。

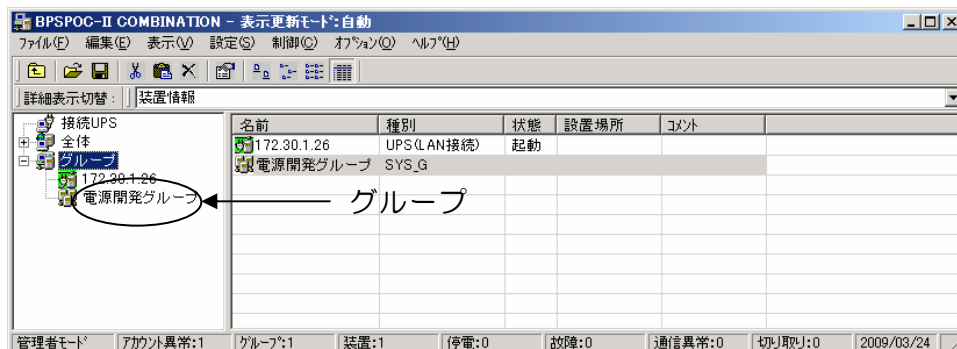
情報

統合管理ツールにて管理される UPS および電源管理ユニットの構成情報は、統合管理ツールを実行しているPCに保存されます。

- (1) 構成情報表示ウィンドウにて「グループ」をクリックしてください。
- (2) メニューバーの「編集」－「登録」－「システムグループ」をクリックすると、「基本設定」ダイアログボックスが表示されます。システムグループの名称と、必要に応じてコメントを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。以上でシステムグループの登録は完了します。



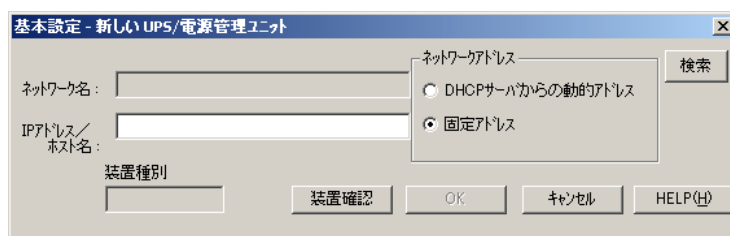
- (3) メインウィンドウにてシステムグループが登録されたことを確認してください。



5.4.2 UPS／電源管理ユニット

UPS および電源管理ユニットを管理するには、統合管理ツールに登録する必要があります。統合管理ツールに登録することで UPS および電源管理ユニットの設定、制御、各種情報等の管理が行えるようになります。

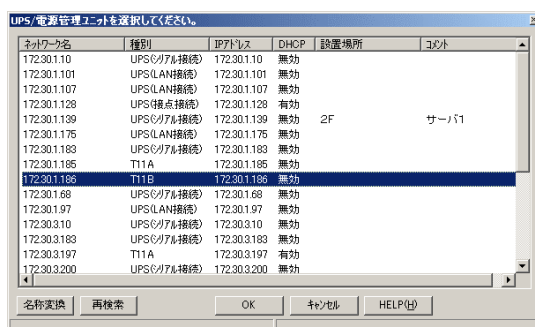
- (1) 構成表示ウィンドウにて [グループ] をクリックしてください。
- (2) メニューバーの [編集] - [登録] - [UPS/電源管理ユニット] メニューをクリックすると、
[基本設定-新しいUPS/電源管理ユニット] ダイアログボックスが表示されます。UPS/電源管理ユニットのネットワークアドレスまたは IP アドレスを入力してください。



注意

ネットワーク名を指定した場合、指定したネットワーク名を DNS サーバなどにより IP アドレスに変換できる必要があります。

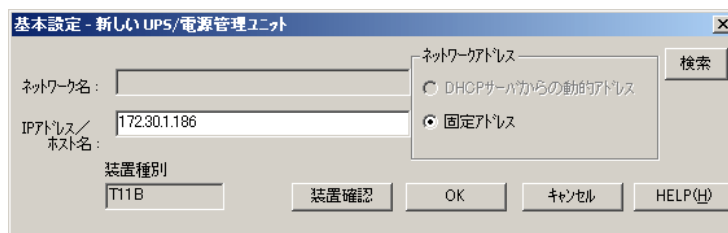
- (3) 目的の UPS／電源管理ユニットが不明の場合は [検索] ボタンをクリックするとネットワークに接続されている UPS／電源管理ユニットの一覧が表示されます、対象となる UPS／電源管理ユニットをクリックしてから [OK] ボタンをクリックしてください。先のダイアログに戻ります。（電源管理ユニットは T11A、T11B の種別です。）



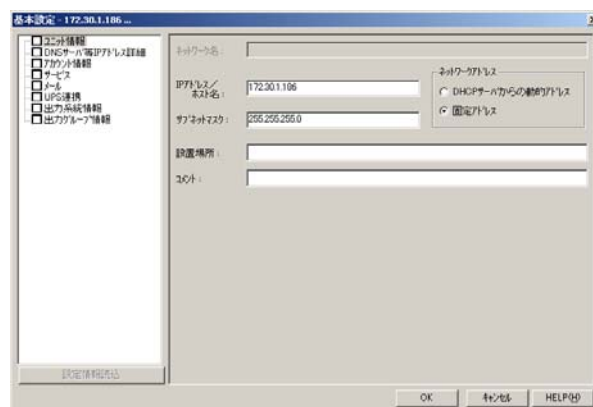
注意

ネットワークの構成によっては、検索できないUPS／電源管理ユニットがあります。特にルータを超えての検索はできません。その場合、[基本設定－新しい UPS/電源管理ユニット] ダイアログボックスで直接IPアドレスを入力してください。

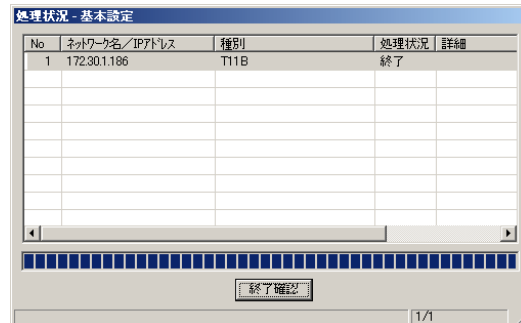
- (4) IPアドレス／ホスト名に目的のIPアドレスが設定されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックしてください。



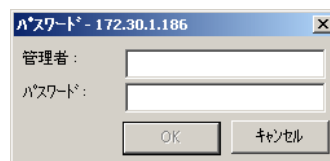
- (5) [基本設定]ダイアログボックスでUPS のネットワーク名またはIPアドレスを確認してください。また、現在の各種設定情報が表示されます。必要に応じて、設置場所、コメントなどを入力し直してください。



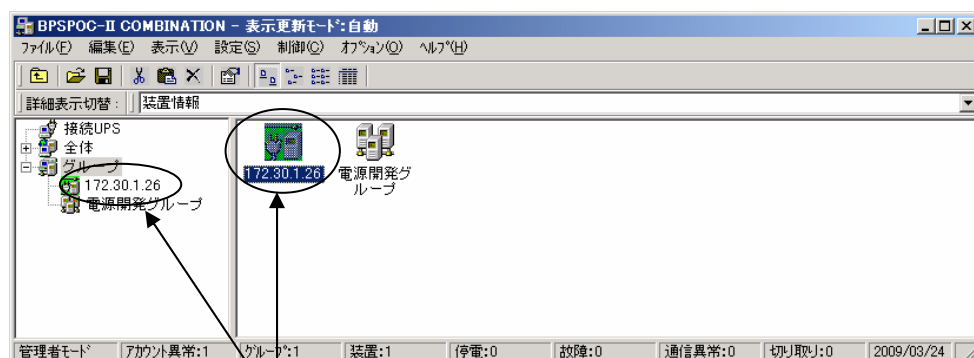
- (6) [OK] ボタンをクリックすると、[処理状況] ダイアログボックスが表示されます。[状態] が「終了」となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。



- (7) [処理状況] ダイアログボックス表示中に、[パスワード] ダイアログボックスが表示されます。UPSの管理者名およびパスワードを入力してください。詳細については「5.3 UPS／電源管理ユニットとのアカウント認証」を参照してください。



- (8) メインウィンドウにて対象となるUPS または、電源管理ユニットが [グループ] 配下に登録されたことを確認してください。



電源管理ユニットのIPアドレス

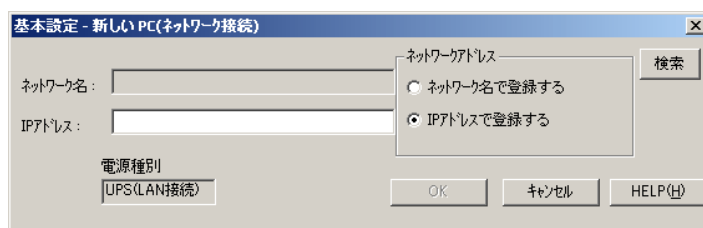
5.5 UPS に接続する装置の登録

5.5.1 PC

(1) PCの登録（PC(ネットワーク接続)）

(A) 統合管理ツールに対象となるUPSを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）

(B) メインウィンドウの構成情報表示ウィンドウにて対象となる UPS を選択した状態でメニューバーの [編集] - [登録] - [PC(ネットワーク接続)] をクリックすると、[基本設定 - 新しいPC] ダイアログボックスが表示されます。接続する新規PCのネットワーク名またはIPアドレスを入力してください。

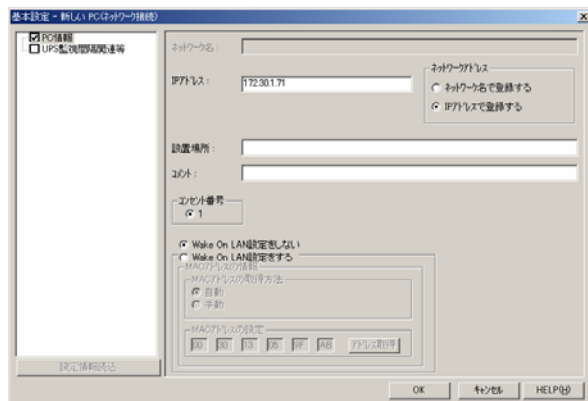


注意

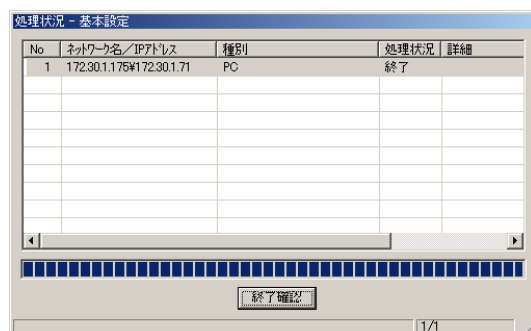
ネットワーク名を指定した場合、指定したネットワーク名を DNS サーバなどによりIPアドレスに変換できる必要があります。

UPS に接続する装置の登録

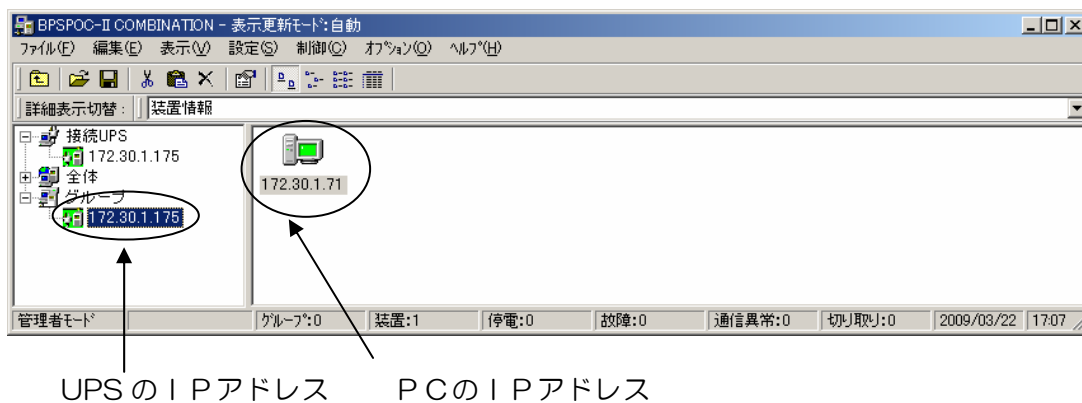
- (C) [基本設定－新しいPC] ダイアログボックスが表示されます。必要に応じて、設置場所、コメントなどを入力してください。



- (D) [OK] ボタンを押すと、[処理状況－基本設定] ダイアログボックスが表示されます。
[処理状況－基本設定] ダイアログボックスの[状態]が「終了」となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。



- (E) 構成情報表示ウィンドウにて対象のUPS をクリックして、詳細表示ウィンドウにてPCが登録されたことを確認してください。



(2) PCの登録（PC(接点接続)）

(A) 統合管理ツールに対象となるUPSを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）

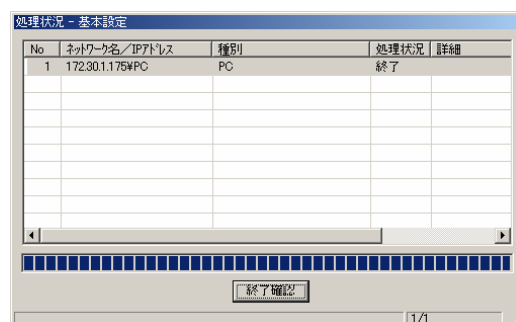
(B) メインウィンドウの構成情報表示ウィンドウにて対象となる UPS を選択した状態でメニューバーの［編集］－［登録］－［PC(接点接続)］をクリックすると、［基本設定－新しいPC］ダイアログボックスが表示されます。接続する新規PCの名称を入力してください。必要に応じて、設置場所、コメントなどを入力してください。



情報

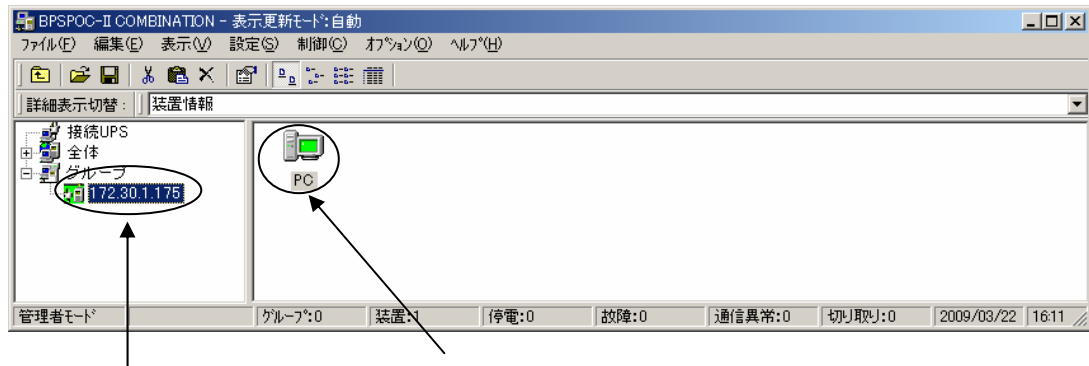
名称はネットワーク名である必要はありません。

(C) ［OK］ボタンを押すと、［処理状況－基本設定］ダイアログボックスが表示されます。
［処理状況－基本設定］ダイアログボックスの［状態］が「終了」となった後、［終了確認］ボタンをクリックしてください。



UPS に接続する装置の登録

- (D) 構成情報表示ウインドウにて対象の UPS をクリックし、詳細表示ウインドウにて PC が登録されたことを確認してください。



UPS の I P アドレス

P C の名称

5.5.2 WS

(1) WSの登録（WS(ネットワーク接続)）

(A) 統合管理ツールに対象となるUPSを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）

(B) メインウィンドウの構成情報表示ウィンドウにて対象となる UPS を選択した状態でメニューバーの[編集]－[登録]－[WS(ネットワーク接続)]をクリックすると、[基本設定－新しいWS] ダイアログボックスが表示されます。接続する新規WSのネットワーク名またはIPアドレスを入力してください。

(C) 以降「5.5.1 (1) PCの登録（PC(ネットワーク接続)）」と同様です。

(2) WSの登録（WS(Telnet接続)）

(A) 統合管理ツールに対象となるUPSを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）

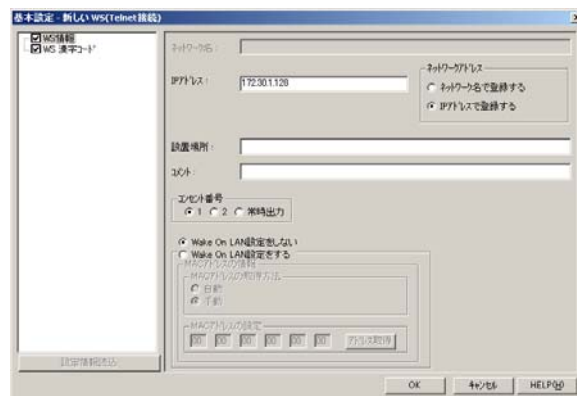
(B) メインウィンドウの構成情報表示ウィンドウにて対象となる UPS を選択した状態でメニューバーの[編集]－[登録]－[WS(Telnet接続)]をクリックすると、[基本設定－新しいWS(Telnet接続)]ダイアログボックスが表示されます。UPS への接続方法と、接続する新規WSのネットワーク名またはIPアドレスを入力してください。



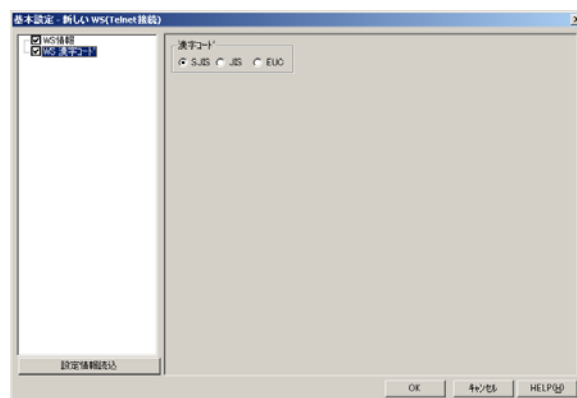
注意

ネットワーク名を指定した場合、指定したネットワーク名を DNS サーバなどにより IP アドレスに変換できる必要があります。

- (C) 「基本設定—新しいWS(Telnet接続)」ダイアログボックス (WS情報) が表示されます。必要に応じて、設置場所、コメントなどを入力してください。

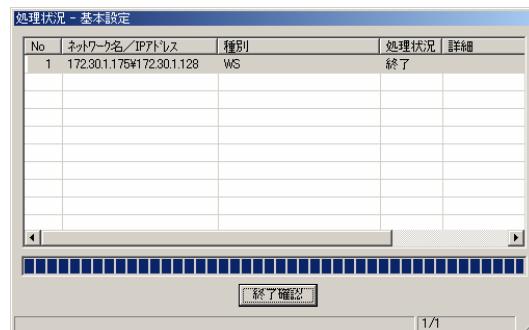


- (D) 「WS漢字コード」をクリックして、WSで使用する漢字コードを設定してください。

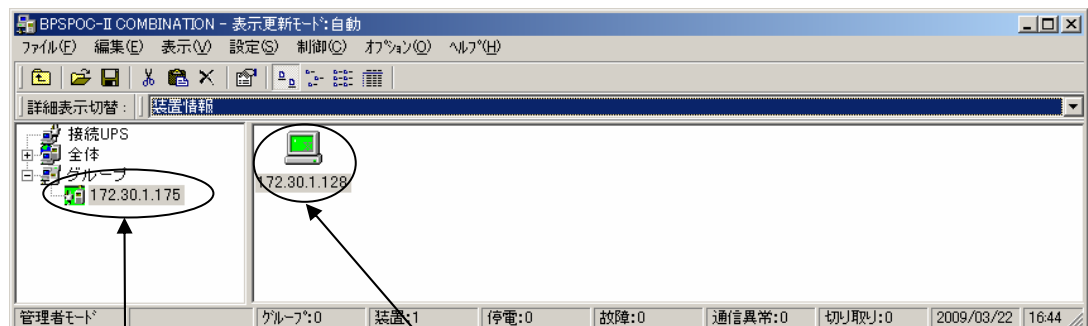


UPS に接続する装置の登録

- (E) [OK] ボタンを押すと、[処理状況－基本設定] ダイアログボックスが表示されます。
- [処理状況－基本設定] ダイアログボックスの[状態] が「終了」となった後、 [終了確認] ボタンをクリックしてください。



- (F) 構成情報表示ウィンドウにて対象の UPS をクリックして、詳細表示ウィンドウにて WS が登録されたことを確認してください。



UPS の IP アドレス

WS の IP アドレス

(3) WSの登録（WS(ログイン接続)）

(A) 統合管理ツールに対象となるUPSを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）

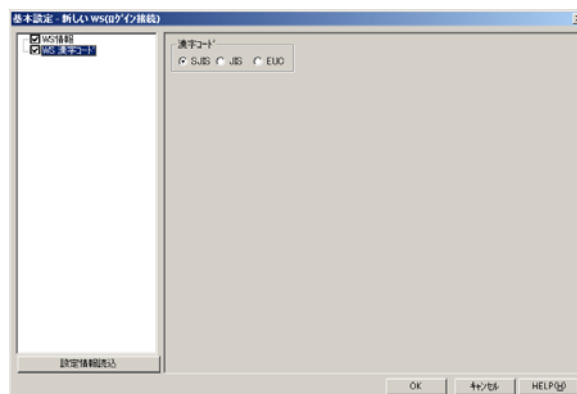
(B) メインウィンドウの構成情報表示ウィンドウにて対象となる UPS を選択した状態でメニューバーの〔編集〕－〔登録〕－〔WS(ログイン接続)〕をクリックすると、〔基本設定－新しいWS(ログイン接続)〕ダイアログボックスが表示されます。接続する新規WSの名称を入力してください。必要に応じて、設置場所、コメントおよび、WSにシリアル接続するための設定も行ってください。



注意

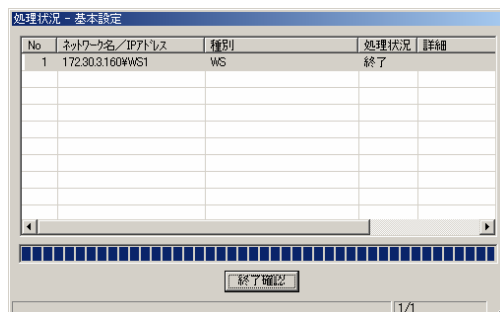
シリアル接続を選択した場合、名称はネットワーク名である必要はありません。

(C) 〔WS 漢字コード〕 をクリックして、WSで使用する漢字コードを設定してください。

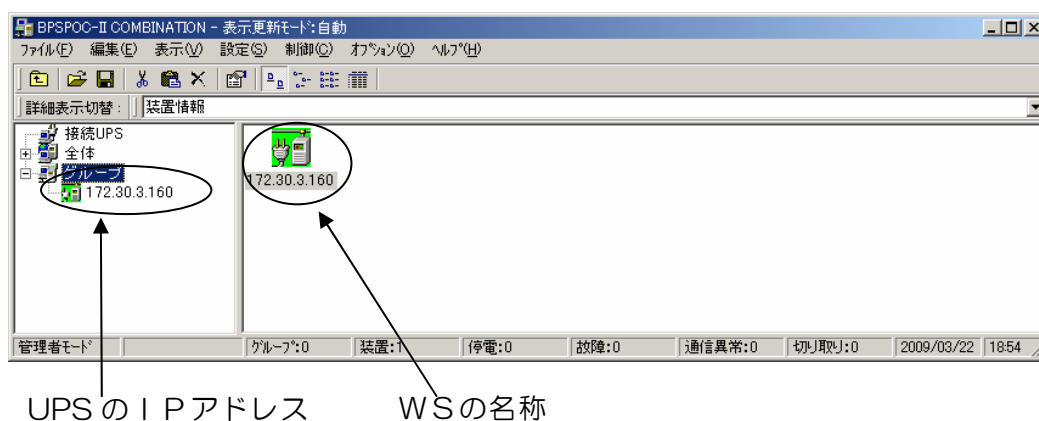


UPS に接続する装置の登録

- (D) [OK] ボタンを押すと、[処理状況－基本設定] ダイアログボックスが表示されます。
- [処理状況－基本設定] ダイアログボックスの[状態] が「終了」となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。



- (E) 構成情報表示ウィンドウにて対象の UPS をクリックして、詳細表示ウィンドウにて WS が登録されたことを確認してください。



(4) スクリプトの設定

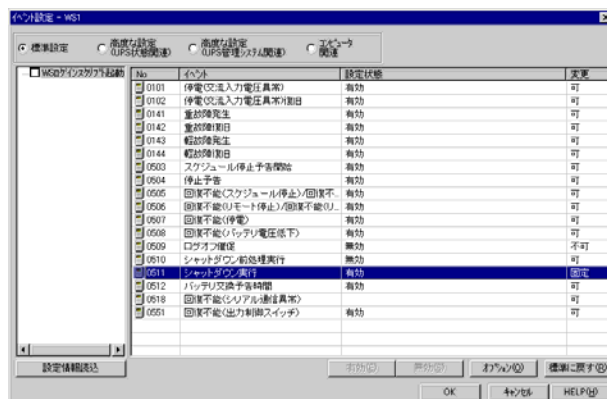
- (A) 構成情報表示ウィンドウで、WSと接続しているUPS をクリックします。
- (B) 詳細表示ウィンドウで UPS に登録されている目的のWS (Telnet 接続/ログイン接続) をクリックしてください。

UPS に接続する装置の登録

- (C) メニューバーの「設定」－「イベント設定」をクリックしてください。「イベント設定」ダイアログボックスが表示されます。



- (D) 「0511 シャットダウン実行」をクリックしてください。



- (E) 「オプション」ボタンをクリックすると以下に示すダイアログが表示されます。ここでスクリプト内容を先に確認したユーザ名、パスワード、シャットダウンコマンドに変更してから「OK」ボタンをクリックしてください。



WS 毎の共通スクリプトおよびイベント毎のスクリプトとして以下の内容が設定されています。（出荷時設定内容）

```
retry=1
interval=30
timeout=30
wait=ogin:
send=<USER NAME>
wait=assword:
send=<PASSWORD>
wait=#
```

WS 毎の共通スクリプト

```
shutdown -h now
wait=<SHUTDOWN MESSAGE>
sleep=60
```

シャットダウン実行イベントに対応したスクリプト

情報

WS の OS が Solaris の場合はシャットダウンコマンドのオプションを以下（下線部）のように変更してください。

```
send=shutdown -y -g 0 -i 0
sleep=60
```

スクリプトの記述ルール

スクリプトは以下の一覧表に示す形式で記述します。

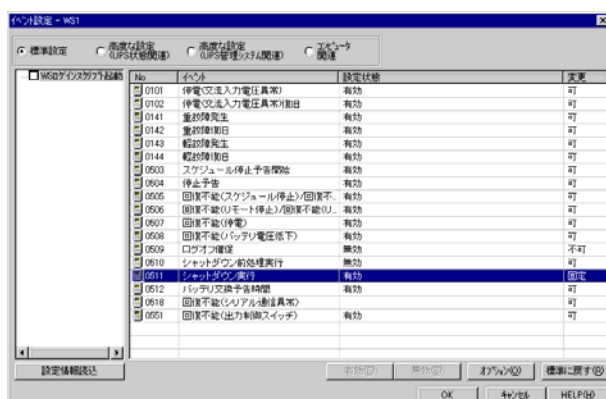
コマンド名	説明	記述例
Send	WS 側に送信する文字列を設定します。	例) send=shutdown
Wait	UPS 側で受信する文字列（プロンプト）を設定します。	例) wait=login
Sleep	何の処理も行わずに待機する時間を設定します。単位は秒（s）	例) sleep=90
Timeout	何らかの処理を実行後、その処理の終了を待つ時間を設定します。 単位は、秒（s） デフォルト値は、30 秒です。	例) timeout=60
Retry	スクリプト失敗時のリトライ回数を設定します。 単位は、回（有効範囲 0～10 回） デフォルト値は、1 回です。	例) retry=2
Interval	スクリプト失敗時のリトライ間隔を設定します。 単位は、秒（有効範囲 1～60 秒） デフォルト値は、30 秒です。	例) interval=10
cr_only	改行コードを<CR>に設定します。 設定値は、yes または no。 yes に設定すると、それ以降の送信データの改行コードが<CR>となります。	例) cr_only=yes cr_only=no
Binsend	WS 側に送信する 8 ビットコードを設定します。 有効範囲 16 進表示：x00～xff 8 進表示：000～377	例) 16 進表示 binsend=x07 8 進表示 binsend=004
Delay	スクリプトの実行を指定時間遅らせます。 イベント・スクリプト中に“delay”記述がある場合は、指定時間経過後にログイン・スクリプトを実行し、イベント・スクリプトを実行します。 （イベント毎のスクリプトのみ）	例) delay=60
Port	WS 側の Telnet ポート番号を指定します。 有効範囲 0～65,535 省略時は、ポート 23 を使用します。 （WS 毎の共通スクリプトのみ）	例) port=10023

スクリプト中に使用できるマクロ文字列

送信文字列にはマクロが使用できます。以下の一覧表に示すマクロ文字列が指定されている場合は、対応した文字列に置き換わります。

マクロ文字列	意味
%STOP_TIME_M%	回復不能までの残り時間（分の位）
%STOP_TIME_S%	回復不能までの残り時間（秒の位）
%SD_DELAY_TIME%	UPS に設定されているシャットダウン遅延時間（秒）
%BAT_CHG_MON%	バッテリー交換までの残り月数

- (F) 「イベント設定」ダイアログボックスが表示された後、[WSログインスクリプト起動] チェックボックスがチェックされているのを確認して[OK] ボタンをクリックしてください。
以上でスクリプトの設定は終了しました。



5.5.3 コンピュータ以外の装置

UPS に接続する装置には P C や W S 以外にルータやハブなどもあります。これらの装置の情報をデータベースとして UPS に登録することができます。

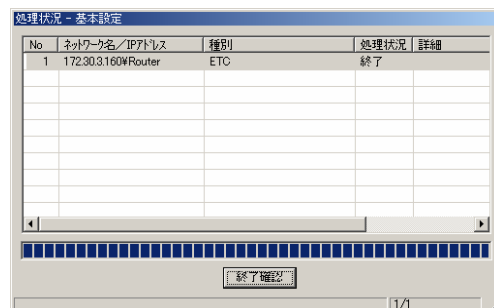
（統合管理ツールに情報として表示されます。動作に影響はあてません。）

(A) 構成情報表示ウインドウの [グループ] 配下から目的の UPS をクリックしてください。目的の UPS が登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従って UPS を統合管理ツールへ登録してください。

(B) メニューバーの [編集] - [登録] - [その他の装置] をクリックすると、[基本設定] ダイアログボックスが表示されます。その他の装置の名称と、必要に応じて設置場所およびコメントを入力してください。



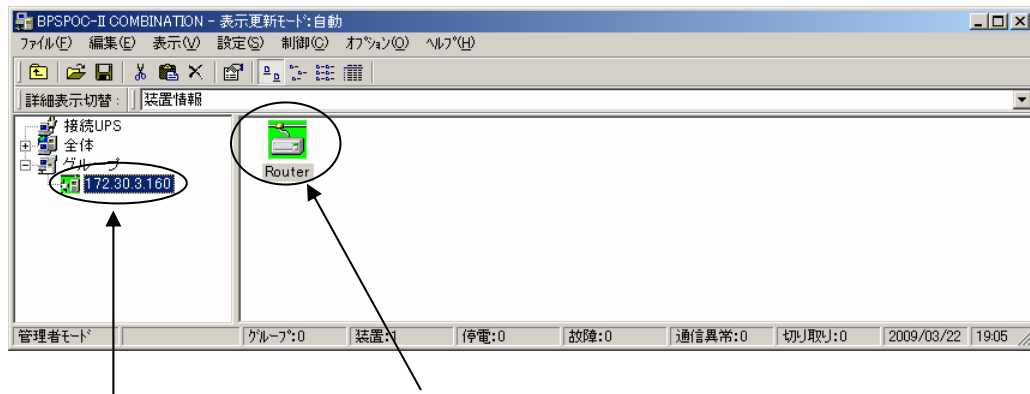
(C) [OK] ボタンをクリックすると、[処理状況] ダイアログボックスが表示されます。[処理状況] ダイアログボックスの [状態] が「終了」となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。



No	ネットワーク名/IPアドレス	種別	処理状況	詳細
1	172.30.3.160#Router	ETC	終了	

UPS に接続する装置の登録

- (D) 構成情報表示ウィンドウにてその他の装置を登録した UPS をクリックして、詳細表示ウィンドウにてその他の装置（Router）が登録されたことを確認してください。



UPS の IP アドレス

その他の装置

5.6 電源管理ユニットに接続する装置の登録

5.6.1 PC

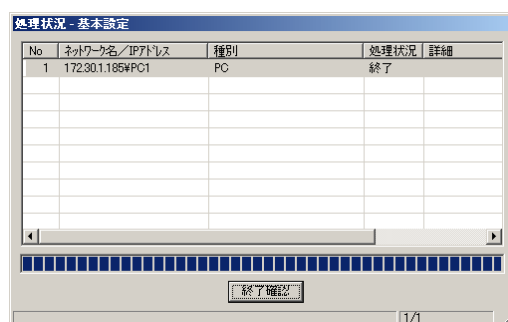
(1) PCの登録

(A) 統合管理ツールに対象となる電源管理ユニットを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）

(B) メインウィンドウの構成情報表示ウィンドウにて対象となる電源管理ユニットを選択した状態でメニューバーの[編集]－[登録]－[PC(接点接続)]をクリックすると、[基本設定－新しいPC(接点接続)]ダイアログボックスが表示されます。電源管理ユニットへ接続する新規PCの名称を入力してください。必要に応じて、設置場所、コメントなどを入力してください。



(C) [OK] ボタンを押すと、[処理状況－基本設定] ダイアログボックスが表示されます。
[処理状況－基本設定] ダイアログボックスの[状態]が「終了」となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。



No	ネットワーク名/IPアドレス	種別	処理状況	詳細
1	172.30.1.185WPC1	PC	終了	

電源管理ユニットに接続する装置の登録

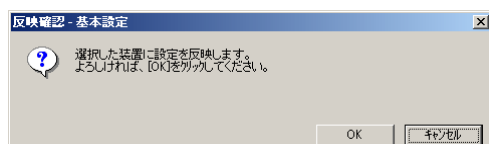
(D) 電源管理ユニット本体の[出力系統情報]を設定できます。必要に応じて設定してください。



(E) 電源管理ユニット本体の[出力グループ情報]を設定できます。必要に応じて設定してください。



(F) (D) または(E)の[OK] ボタンを押すと、設定値反映確認画面が表示されます。設定値を反映する場合は[OK] ボタンを押してください。また、設定値を反映させない場合は[キャンセル]ボタンを押してください。

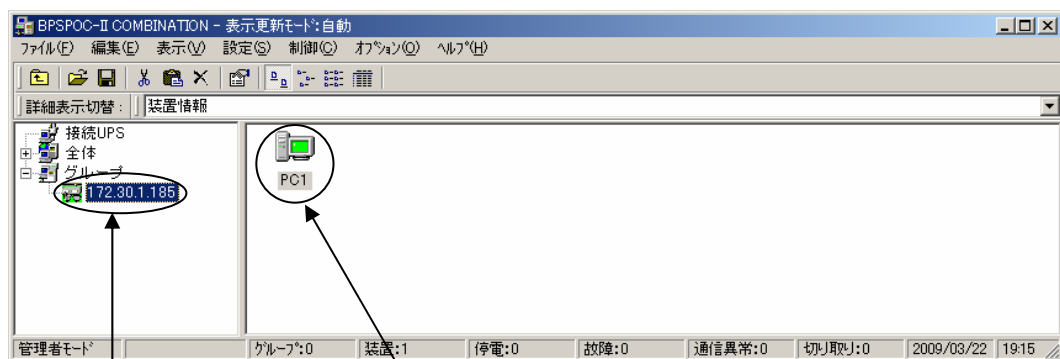


(G) [OK] ボタンを押すと、電源管理ユニットの[処理状況—基本設定] ダイアログボックスが表示されます。[処理状況—基本設定] ダイアログボックスの[状態] が「終了」となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。

電源管理ユニットに接続する装置の登録

[illegible]

(H) 構成情報表示ウィンドウにて対象の電源管理ユニットをクリックして、詳細表示ウィンドウにてPCが登録されたことを確認してください。



電源管理ユニット
の I P アドレス

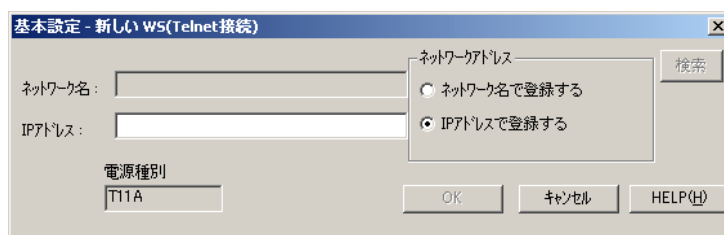
PCの名称

5.6.2 WS

(1) WSの登録（WS(Telnet接続)）

(A) 統合管理ツールに対象となる電源管理ユニットを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）

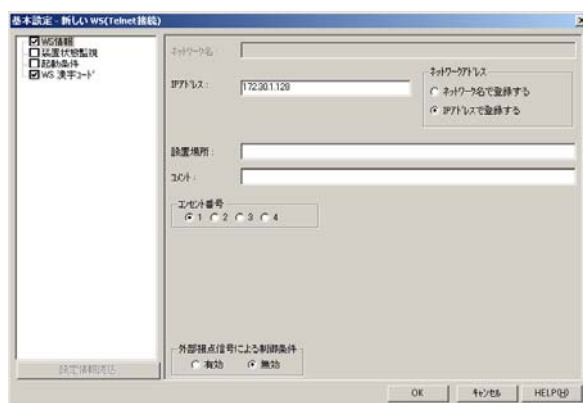
(B) メインウィンドウの構成情報表示ウィンドウにて対象となる電源管理ユニットを選択した状態でメニューバーの[編集]－[登録]－[WS(Telnet接続)]をクリックすると、[基本設定－新しいWS(Telnet接続)]ダイアログボックスが表示されます。電源管理ユニットへの接続方法と、接続する新規WSのネットワーク名またはIPアドレスを入力してください。



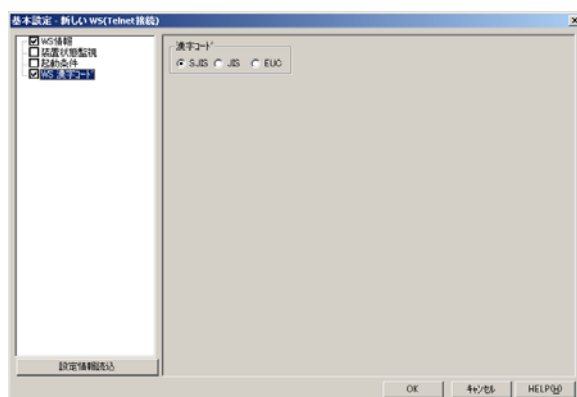
注意

ネットワーク名を指定した場合、指定したネットワーク名を DNS サーバなどにより IP アドレスに変換する必要があります。

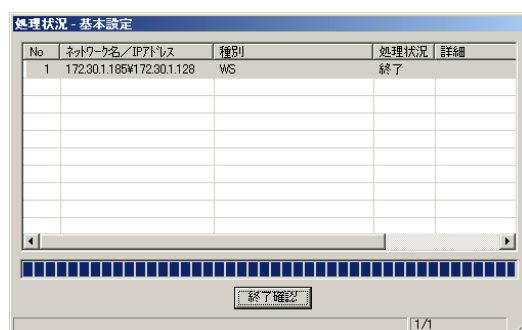
(C) [基本設定－新しいWS(Telnet接続)]ダイアログボックス（WS情報）が表示されます。必要に応じて、設置場所、コメントなどを入力してください。



- (D) 「WS漢字コード」をクリックして、WSで使用する漢字コードを設定してください。また、必要に応じ、「装置状態監視」、「起動条件」を設定してください。

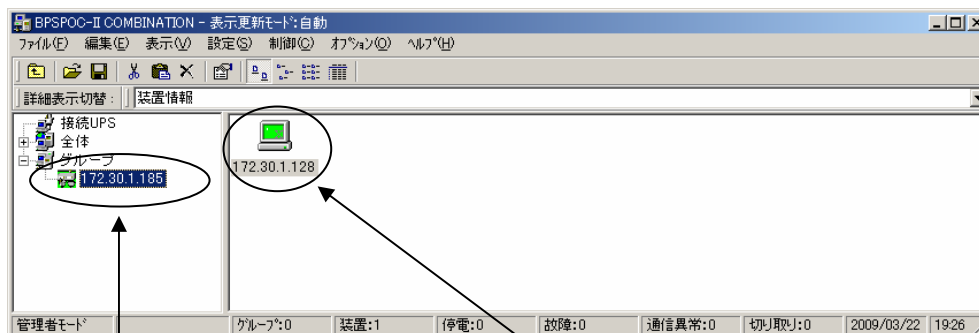


- (E) 「OK」ボタンを押すと、「処理状況－基本設定」ダイアログボックスが表示されます。
「処理状況－基本設定」ダイアログボックスの「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。



- (F) 以降「5.6.1 (1) PCの登録」と同様に、「出力系統情報」と、「出力グループ情報」を設定します。

- (G) 構成情報表示ウィンドウにて対象の電源管理ユニットをクリックして、詳細表示ウィンドウにてWSが登録されたことを確認してください。



電源管理ユニットのIPアドレス

WSのIPアドレス

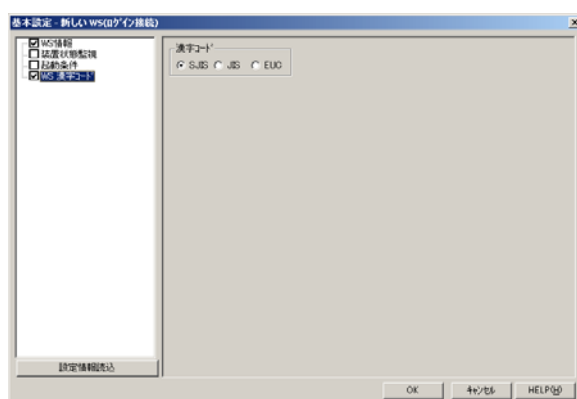
(2) WSの登録（WS(ログイン接続)）

(A) 統合管理ツールに対象となる電源管理ユニットを登録します。（「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」を参照）

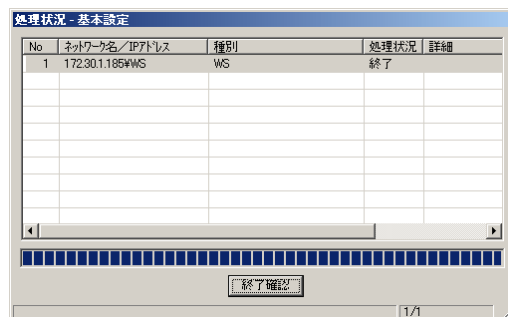
(B) メインウィンドウの構成情報表示ウィンドウにて対象となる電源管理ユニットを選択した状態でメニューバーの[編集]－[登録]－[WS(ログイン接続)]をクリックすると、[基本設定－新しいWS(ログイン接続)]ダイアログボックスが表示されます。電源管理ユニットへ接続する新規WSの名称を入力してください。必要に応じて、設置場所、コメントなどを入力してください。また、WSにシリアル接続するための設定を行ってください。



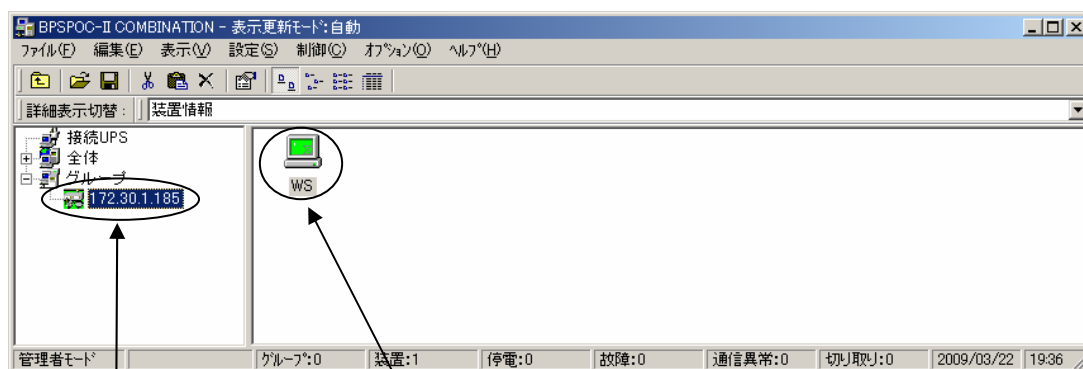
(C) [WS漢字コード]をクリックして、WSで使用する漢字コードを設定してください。また、必要に応じ、[装置状態監視]、[起動条件]を設定してください。



- (D) [OK] ボタンを押すと、[処理状況－基本設定] ダイアログボックスが表示されます。
- [処理状況－基本設定] ダイアログボックスの[状態] が「終了」となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。



- (E) 以降「5.6.1 (1) PCの登録」と同様に、「出力系統情報」と、[出力グループ情報]を設定します。
- (F) 構成情報表示ウィンドウにて対象の電源管理ユニットをクリックして、詳細表示ウィンドウにてWSが登録されたことを確認してください。



電源管理ユニットの
IPアドレス

WSの名称

(3) スクリプトの設定

UPSの場合と同様にスクリプトの設定を行います。設定方法は、「5.5.2 (4) スクリプトの設定」を参照してください。

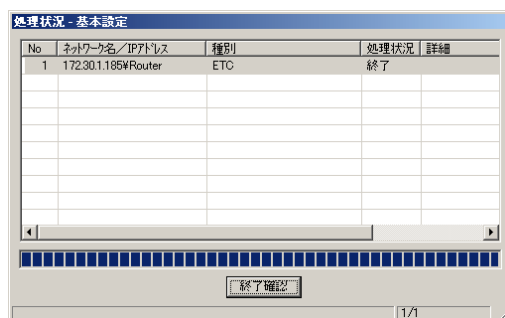
5.6.3 コンピュータ以外の装置

電源管理ユニットに接続する装置にはPCやWS以外にルータやハブなどもあります。これらの装置を電源管理ユニットに登録することができます。

- (1) 構成情報表示ウィンドウの「グループ」配下から目的の電源管理ユニットをクリックしてください。目的の電源管理ユニットが登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従って電源管理ユニットを統合管理ツールへ登録してください。
- (2) メニューバーの「編集」－「登録」－「その他の装置」をクリックすると、「基本設定」ダイアログボックスが表示されます。その他の装置の名称と、必要に応じて設置場所、コメントおよび、コンセント番号を設定してください。

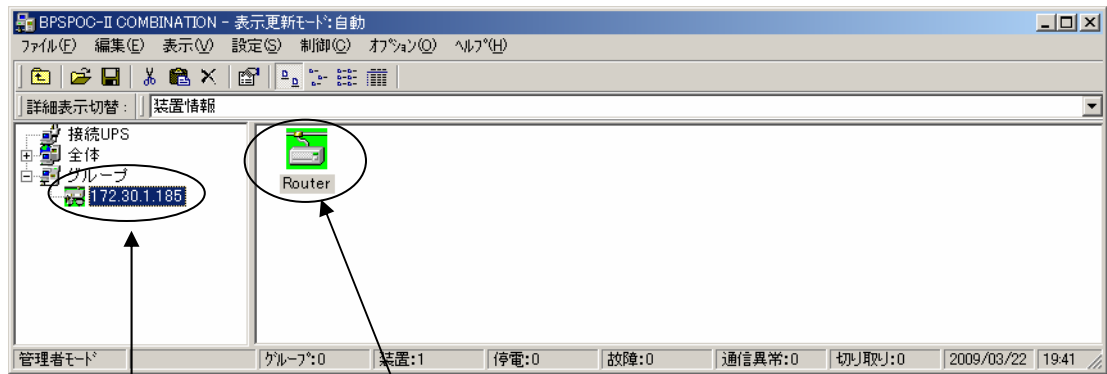


- (3) 「OK」ボタンをクリックすると、「処理状況」ダイアログボックスが表示されます。「処理状況」ダイアログボックスの「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。



電源管理ユニットに接続する装置の登録

- (A) 以降「5.6.1 (1) PCの登録」と同様に、「出力系統情報」と、[出力グループ情報]を設定します。
- (4) 構成情報表示ウィンドウにてその他の装置を登録した電源管理ユニットをクリックして、詳細表示ウィンドウにてその他の装置 (Router) が登録されたことを確認してください。



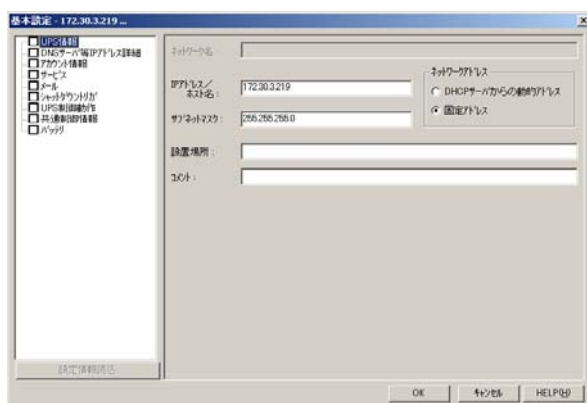
電源管理ユニット
のIPアドレス

その他の装置

5.7 UPS／電源管理ユニットの設定変更

5.7.1 設定操作

- (1) 構成情報表示ウインドウの「グループ」配下から目的のUPSまたは電源管理ユニットをクリックしてください。目的のUPSまたは電源管理ユニットが登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従って統合管理ツールへ登録してください。
- (2) メニューバーの「設定」－「基本設定」をクリックすると、「基本設定」ダイアログボックスが表示されます。目的の項目を左側の構成ウインドウで選択して表示内容を切替えてください。さらに、変更したい項目のチェックボックスをチェックしてください。



注意

構成ウインドウでチェックした項目についてのみ設定が更新されます。

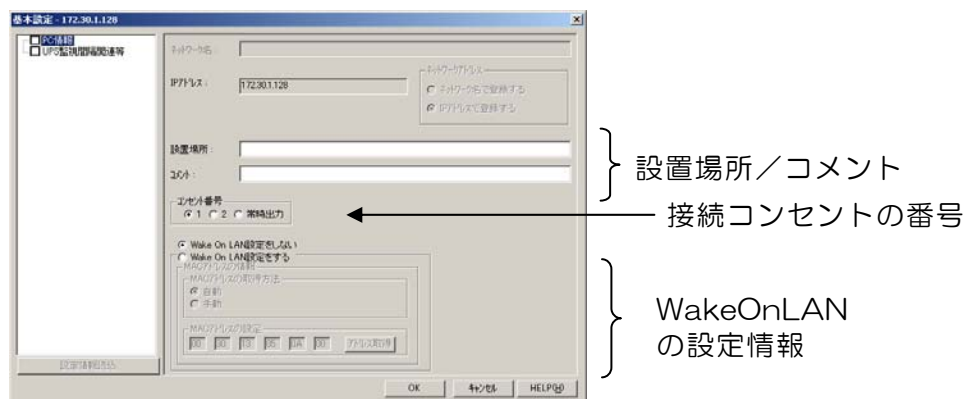
5.7.2 設定項目

(1) PC毎に独立して設定する項目一覧

詳細表示ウィンドウにて**PC**を選択して操作します。以下に目的の操作を行う場合の画面および項目について示します。

(A) 登録PCの情報

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「PC情報」選択
- 設定項目（PC（ネットワーク接続））
 - ① 設置場所／コメント
 - ② 接続コンセント番号（コンセント毎に制御可能なUPSのみ表示）
 - ③ Wake On LAN（Wake On LAN 対応可能なUPSのみ表示）



- 設定項目（PC（接点接続））

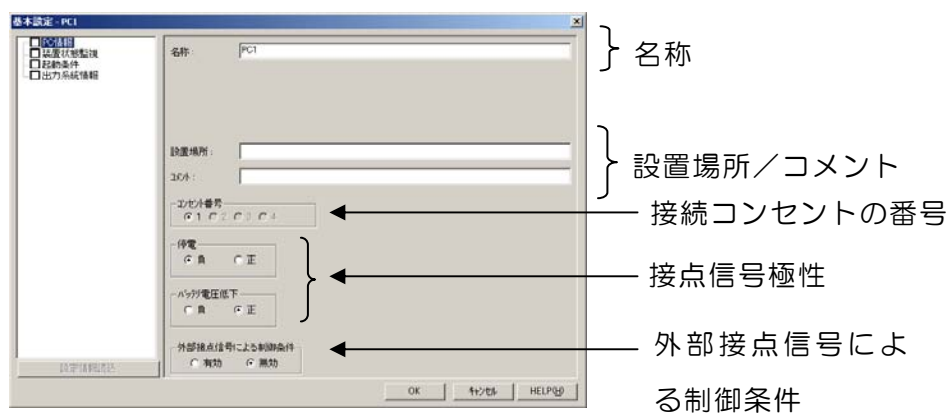
① 名称

② 設置場所／コメント

③ 接続コンセント番号（電源管理ユニット、またはコンセント毎に制御可能な UPS のみ表示）

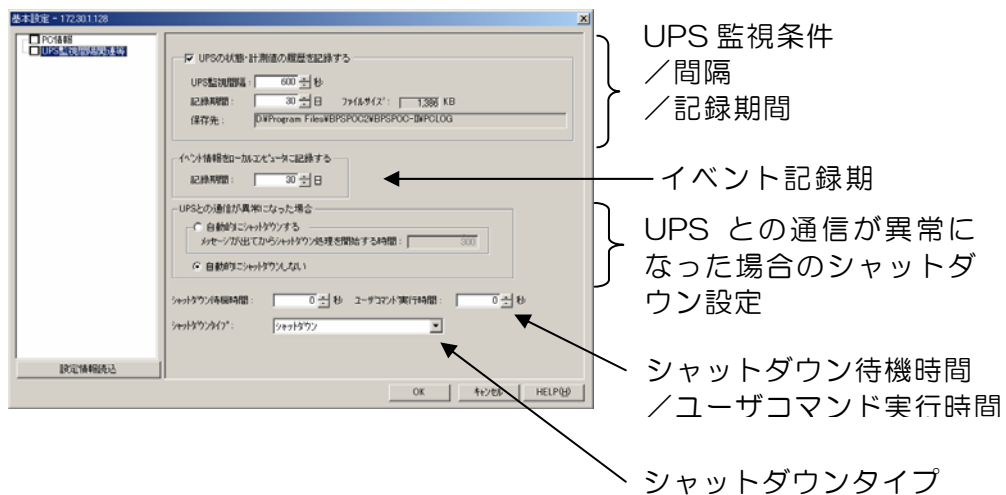
④ 接点信号極性（停電、バッテリー電圧低下）

⑤ 外部接点信号による制御条件（対応可能な電源管理ユニットのみ表示）



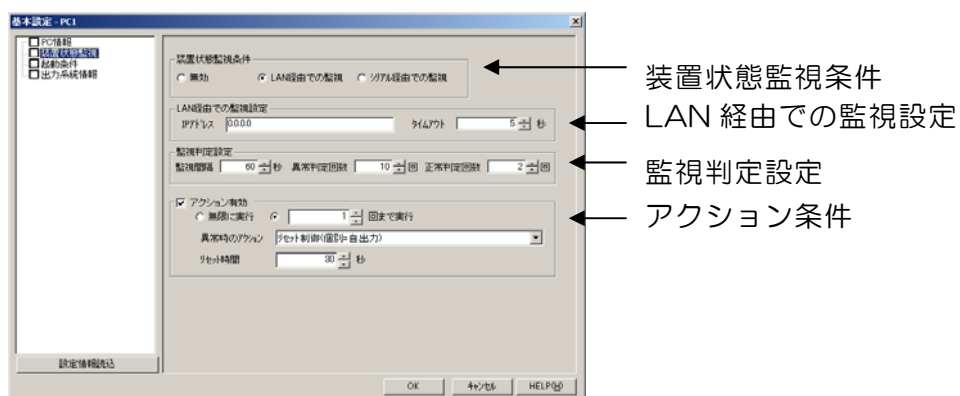
(B) UPS 監視間隔等の設定

- メニューバーの〔設定〕－〔基本設定〕選択
- 〔UPS 監視間隔関連等〕選択（P C（ネットワーク接続））
- 設定項目
 - ① P CでUPS の情報を記録する条件、間隔および記録期間
 - ② イベント情報をコンピュータに記録する記録期間
 - ③ UPS との通信が異常になった場合のシャットダウン有無
 - ④ シャットダウン待機時間（対応可能な装置のみ表示）
 - ⑤ ユーザコマンド実行時間（対応可能な装置のみ表示）
 - ⑥ シャットダウンタイプ（対応可能な装置のみ表示）



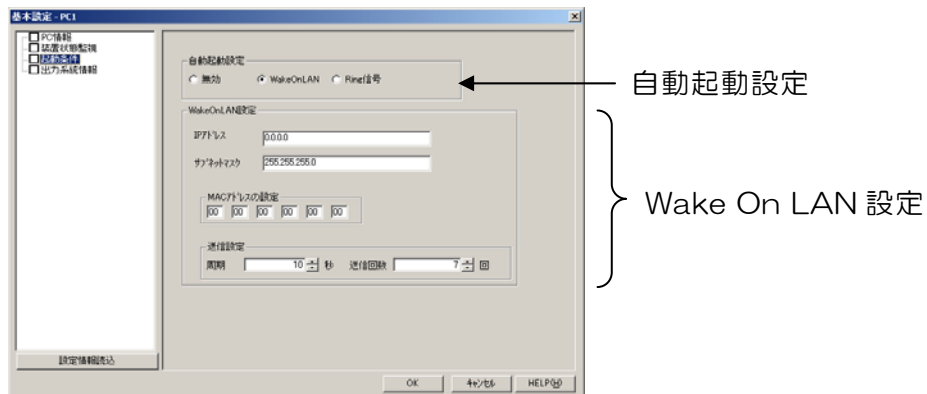
(C) 装置状態監視の設定

- メニューバーの〔設定〕－〔基本設定〕選択
- 〔装置状態監視〕選択（本機能対応の電源管理ユニット登録装置のみ）
- 設定項目
 - ① 装置状態監視条件
 - ② LAN 経由での監視設定
 - ③ 監視判定設定
 - ④ アクション条件



(D) 起動条件（Wake On LAN／リング信号）の設定

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「起動条件」選択（本機能対応の電源管理ユニット登録装置のみ）
- 設定項目
 - ① 自動起動設定
 - ② Wake On LAN 設定



(E) 出力系統情報の設定

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「出力系統情報」選択（電源管理ユニット登録装置のみ）



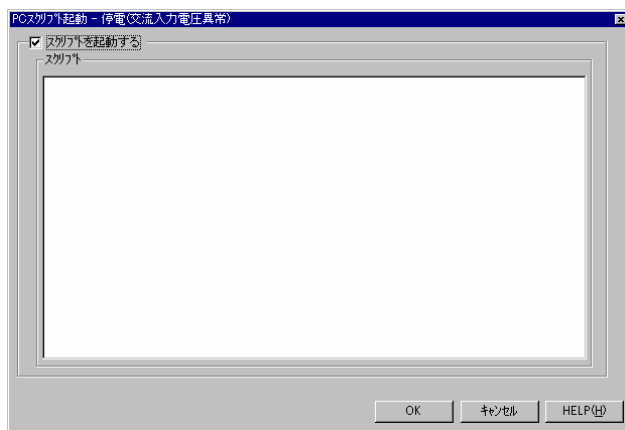
(F) PC側で実行するスクリプトの実行有無（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「PCスクリプト起動」選択（PC（ネットワーク接続））



(G) PC側で実行するスクリプトの内容変更（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「PCスクリプト起動」選択（PC（ネットワーク接続））
- 「オプション」ボタンクリック



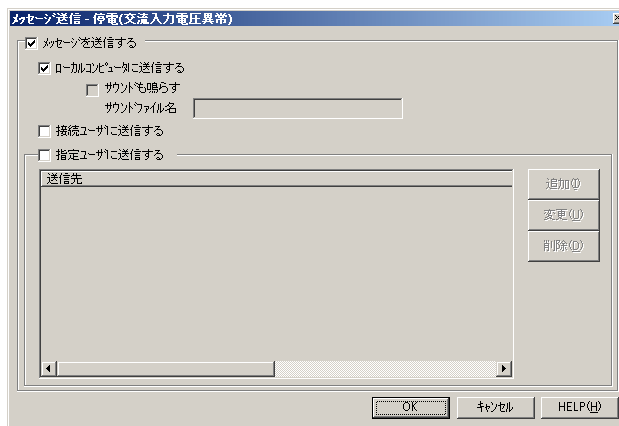
(H) Windows メッセージの表示、送信有無（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「メッセージ送信」選択（PC（ネットワーク接続））



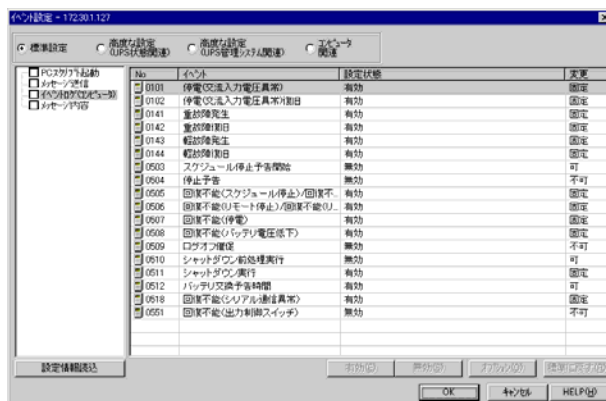
(I) Windows メッセージの表示、送信の宛先（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「メッセージ送信」選択（PC（ネットワーク接続））
- 「オプション」ボタンクリック



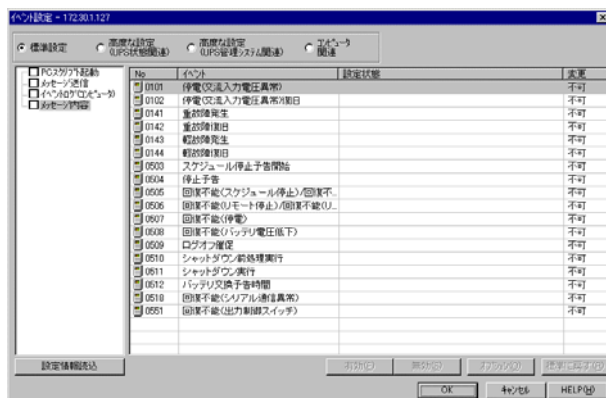
(J) PCで記録するイベントの種類（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「イベントログ（コンピュータ）」選択（PC（ネットワーク接続））



(K) メッセージ内容の変更（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「メッセージ内容」選択（PC（ネットワーク接続））



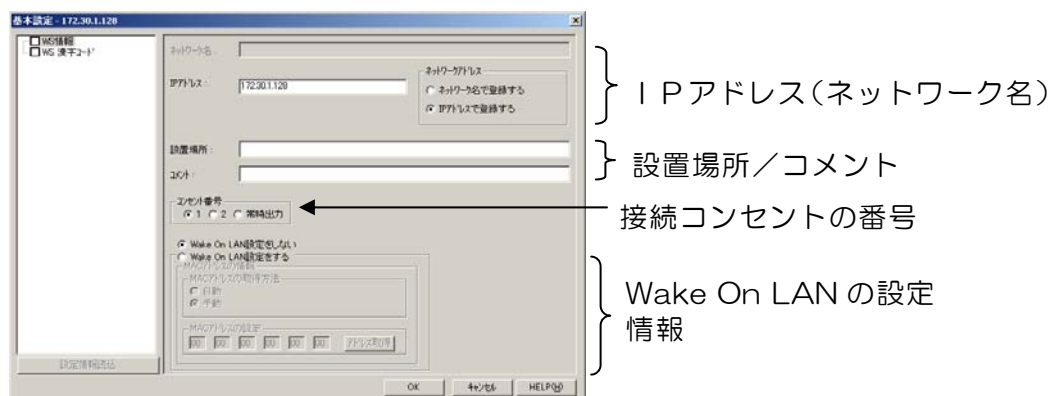
(2) WS毎に独立して設定する項目一覧

構成情報表示ウィンドウまたは詳細表示ウィンドウにてWSを選択して操作します。以下に目的の操作を行う場合の画面および項目について示します。

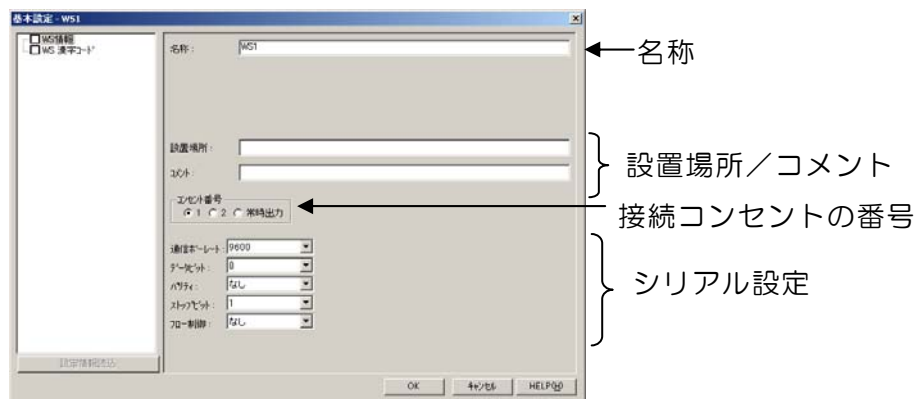
なお、ここではWS（Telnet接続）とWS（ログイン接続）について説明します。WS（ネットワーク接続）の場合は、PC（ネットワーク接続）と設定内容は同様です。「5.7.2（1）PC毎に独立して設定する項目一覧」の「PC～」を「WS～」に読み替えてください。

(A) 登録WSの情報

- メニューバーの[設定]－[基本設定]選択
- [WS情報]選択
- 設定項目（WS（Telnet接続））
 - ① IPアドレス
 - ② 設置場所／コメント
 - ③ 接続コンセント番号（電源管理ユニット、またはコンセント毎に制御可能なUPSのみ表示）
 - ④ Wake On LAN（Wake On LAN 対応可能なUPSのみ表示）

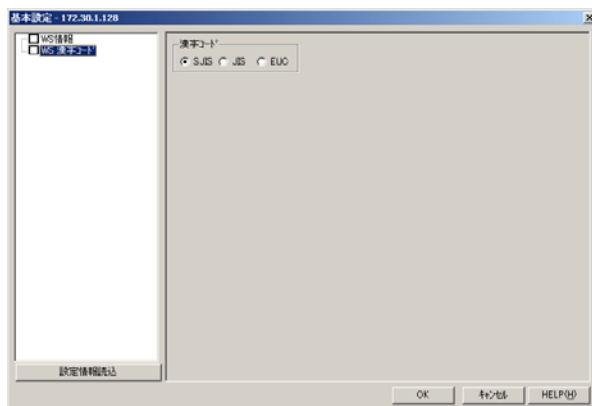


- 設定項目（WS（（ログイン接続））
 - ⑤ 名称
 - ⑥ 設置場所／コメント
 - ⑦ 接続コンセント番号（電源管理ユニット、またはコンセント毎に制御可能な UPS のみ表示）
 - ⑧ WSにシリアル接続するためのシリアル設定



(B) WSにメッセージを表示する際の漢字コード

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「WS漢字コード」選択



(C) 装置状態監視の設定

「5.7.2（１）（C）装置状態監視の設定」参照。

(D) 起動条件 (Wake On LAN／リング信号) の設定

「5.7.2 (2) (D) 起動条件 (Wake On LAN／リング信号) の設定」参照。

(E) 出力系統情報の設定

「5.7.2 (1) (E) 出力系統情報の設定」参照。

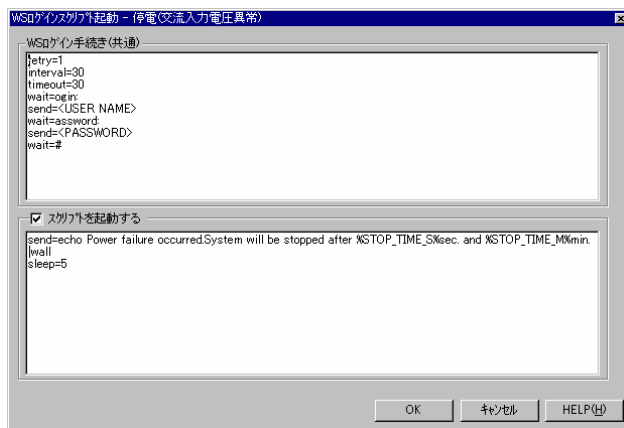
(F) WSに指示するスクリプトの実行有無 (イベント毎)

- メニューバーの [設定] - [イベント設定] 選択
- [WSログインスクリプト起動] 選択



(G) WSに指示するスクリプトの内容変更 (イベント毎)

- メニューバーの [設定] - [イベント設定] 選択
- [WSログインスクリプト起動] 選択
- [オプション] ボタンクリック

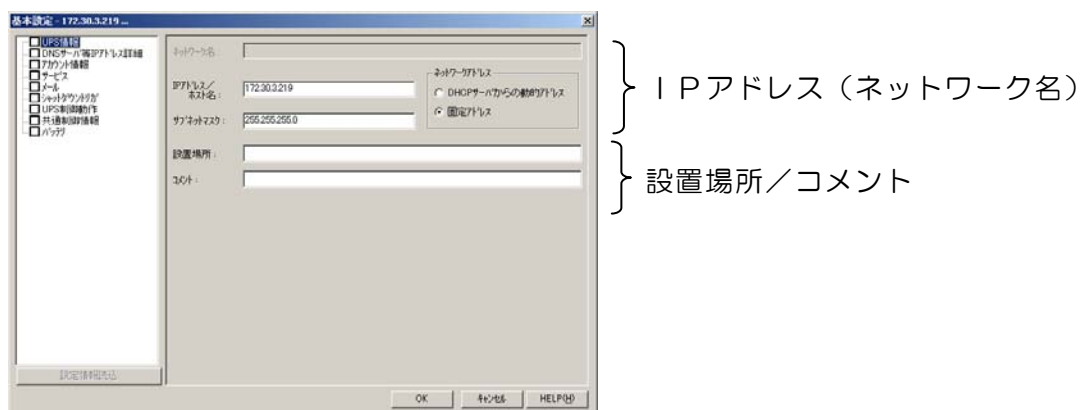


(3) UPS／電源管理ユニット毎に独立して設定する項目一覧

構成情報表示ウィンドウまたは詳細表示ウィンドウにて **UPS** を選択して操作します。以下に目的の操作を行う場合の画面および項目について示します。

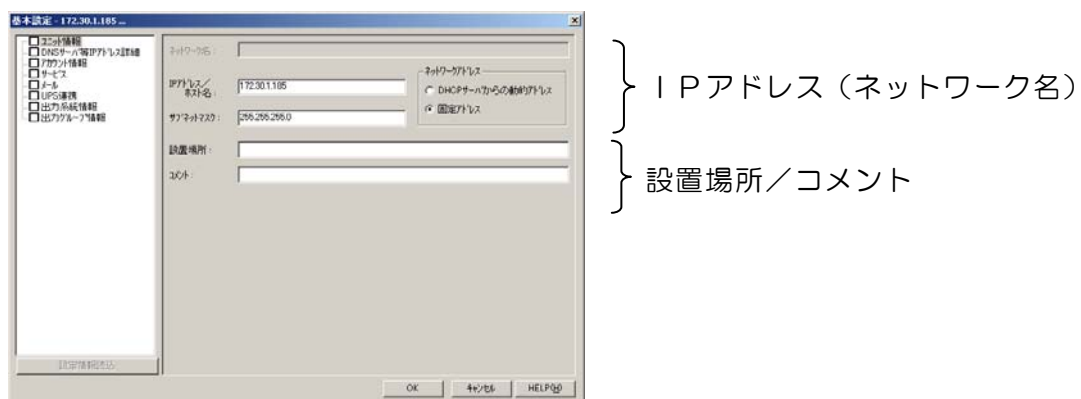
(A) UPS 情報の設定

- メニューバーの〔設定〕－〔**基本設定**〕選択
- 〔UPS 情報〕選択
- 設定項目
 - ① IPアドレス（ネットワーク名）
 - ② 設置場所／コメント



(B) 電源管理ユニット情報の設定

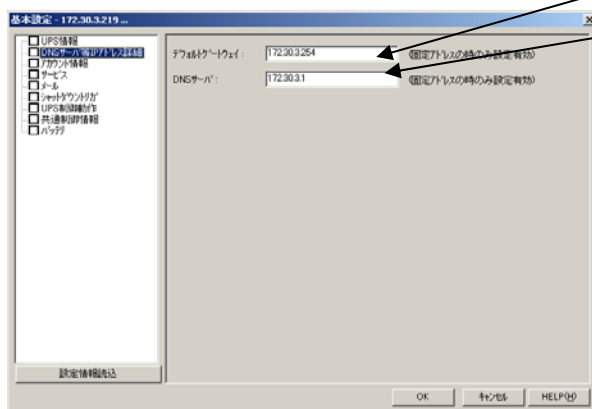
- メニューバーの〔設定〕－〔**基本設定**〕選択
- 〔ユニット情報〕選択
- 設定項目
 - ① IPアドレス（ネットワーク名）
 - ② 設置場所／コメント



(C) ネットワーク情報の詳細設定

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「DNSサーバ等IPアドレス詳細」選択
- 設定項目
 - ① デフォルトゲートウェイアドレス
 - ② DNSサーバアドレス

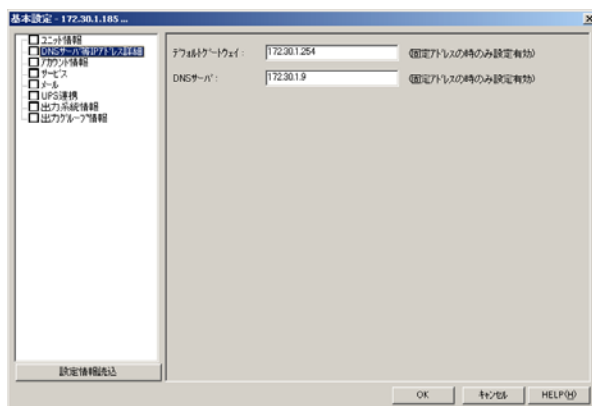
<UPS>



デフォルトゲートウェイアドレス

DNSサーバアドレス

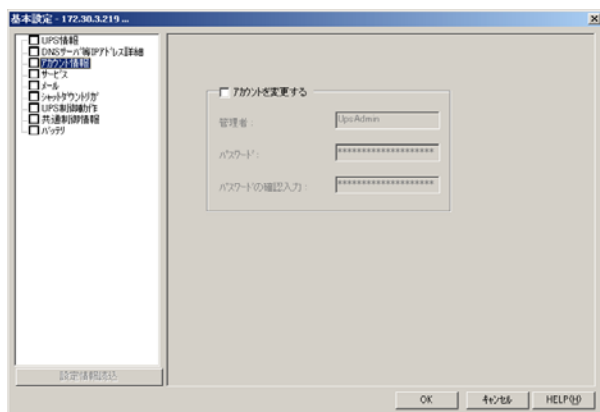
<電源管理ユニット>



(D) 管理者アカウント

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「アカウント情報」選択

<UPS>



<電源管理ユニット>



(E) シャットダウントリガ

シャットダウントリガを設定します。(UPS)

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「シャットダウントリガ」選択



※UPS によって対応していない項目は非表示または設定不可となります。

(F) UPS 制御動作

UPS 制御動作を設定します。(UPS)

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「UPS 制御動作」選択



※UPS によって対応していない項目は非表示または設定不可となります。

(G) 共通制御情報

共通制御情報を設定します。(UPS)

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「共通制御情報」選択

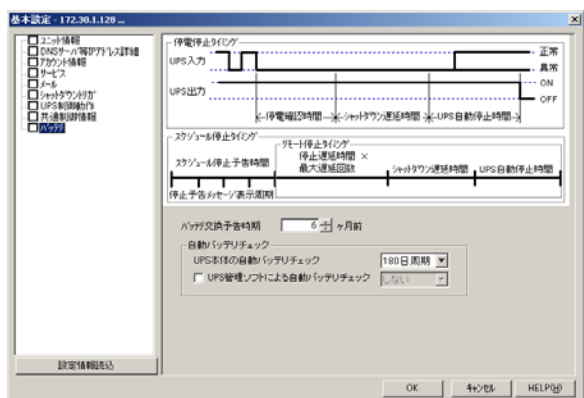


※UPS によって対応していない項目は非表示または設定不可となります。

(H) バッテリー関連情報

バッテリー関連情報を設定します。(UPS)

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「バッテリー」選択

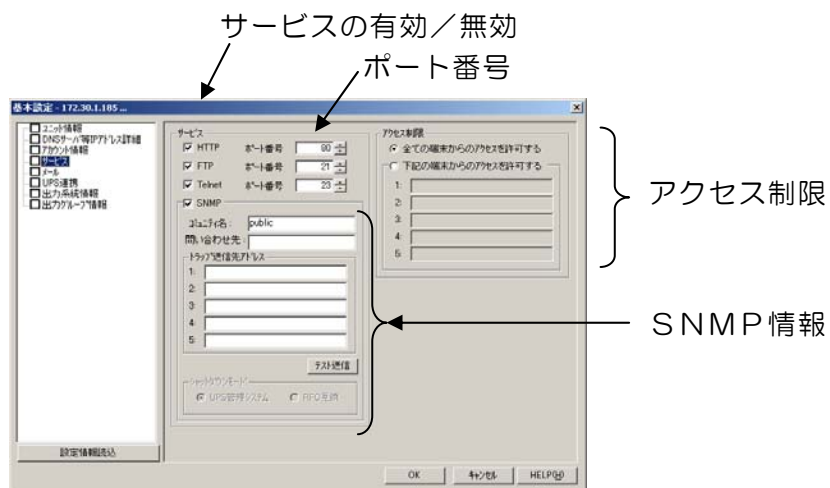


※UPS によって対応していない項目は非表示または設定不可となります。

(I) サービス (SNMP、HTTP、FTP、Telnet) 設定

サービス (SNMP、HTTP、FTP、Telnet) 情報を設定します。

- メニューバーの〔設定〕－〔基本設定〕選択
- 〔サービス〕選択
- 設定項目
 - ① サービスの有効／無効
 - ② ポート番号
 - ③ SNMP情報（有効／無効、コミュニティ名、問い合わせ先、トラップ送信先、シャットダウンモード）
 - ④ アクセス制限（全サービス共通）

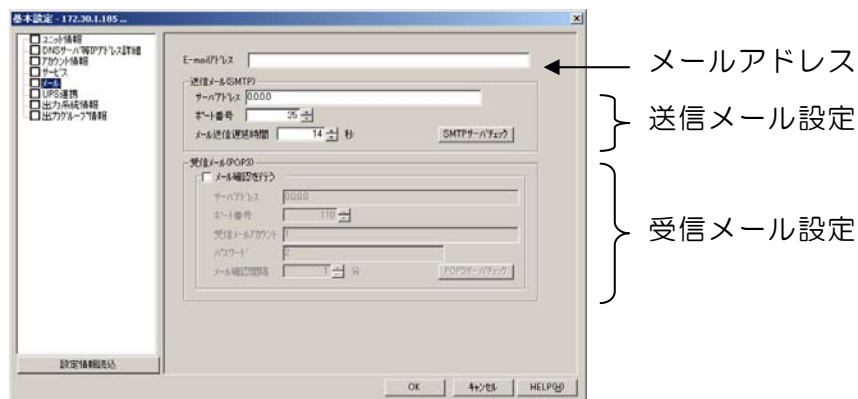


※UPS によって対応していない項目は非表示または設定不可となります。

(J) メールサーバの設定

メールサーバを設定します。（UPS／メール機能対応の電源管理ユニット）

- メニューバーの〔設定〕－〔基本設定〕選択
- 〔メール〕選択
- 設定項目
 - ① メールアドレス
 - ② 送信メール設定（サーバアドレス、ポート番号等）
 - ③ 受信メール設定（サーバアドレス、ポート番号等）



※UPS によって対応していない項目は非表示または設定不可となります。

(K) 出力グループ情報

出力グループ情報を設定します。（電源管理ユニット）

- メニューバーの〔設定〕－〔基本設定〕選択
- 〔出力グループ情報〕選択
- 設定項目
 - ① コンセント番号
 - ② 復電時の条件
 - ③ 出力グループ名称
 - ④ コメント



(L) 出力系統情報

出力系統情報を設定します。（電源管理ユニット）

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「出力系統情報」選択
- 設定項目
 - ① 出力オン遅延時間
 - ② シャットダウン遅延時間
 - ③ 出力オフ遅延時間

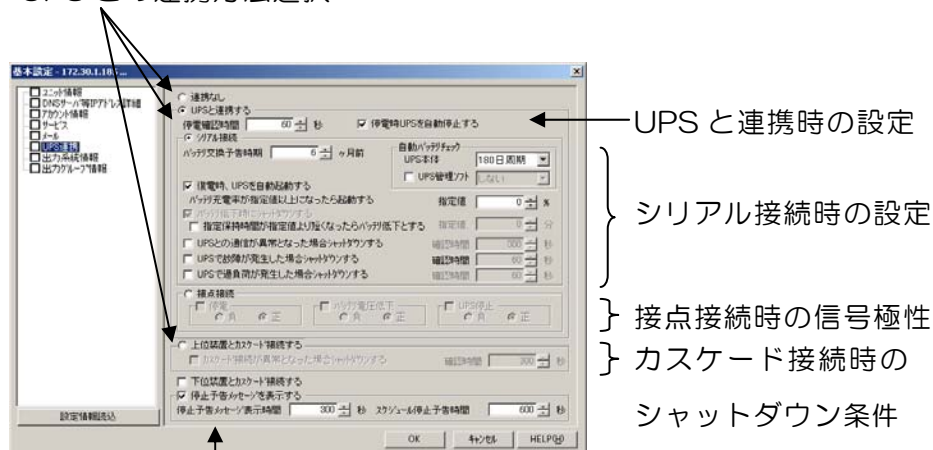


(M) UPS との連携設定

UPS との連携情報を設定します。（電源管理ユニット）

- メニューバーの「設定」－「基本設定」選択
- 「UPS 連携」選択
- 設定項目
 - ① UPS との連携方法（連携なし／連携あり（シリアル／接点）／カスケード）
 - ② UPS と連携時の設定（停電確認時間、停電時の UPS 停止条件）
 - ③ シリアル接続時の設定（シャットダウントリガ、バッテリー関連等）
 - ④ 接点接続時の信号極性
 - ⑤ カスケード接続時のシャットダウン条件
 - ⑥ 下位装置とカスケード接続設定
 - ⑦ 停止予告メッセージ設定

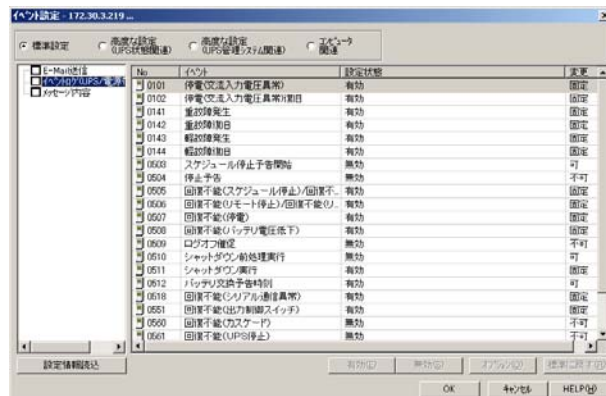
UPS との連携方法選択



停止予告メッセージ設定

(N) UPSで記録するイベントの種類（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「イベントログ（UPS／電源管理ユニット）」選択



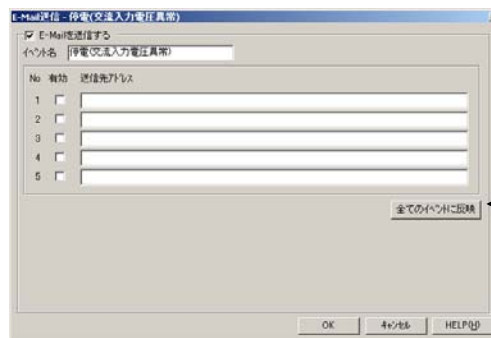
(O) E-Mailによる通知有無（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「E-Mail送信」選択（UPS／電源管理ユニット）



(P) E-Mailの通知先アドレス（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「E-Mail送信」選択（UPS／電源管理ユニット）
- 「オプション」ボタンクリック



特定のイベントに設定したメール送信先アドレスを、全てのイベントに反映させることができます

(Q) コンピュータに表示されるメッセージの文字列（イベント毎）

- メニューバーの「設定」－「イベント設定」選択
- 「メッセージ内容」選択（UPS）



(R) スケジュール運転の有効

スケジュール運転を有効に設定します。

- メニューバーの「設定」－「スケジュール設定」選択
- 「スケジュール有効」にチェックを行う（UPS）



スケジュール運転の有効

- 「スケジュール有効」にチェックを行う（電源管理ユニット）

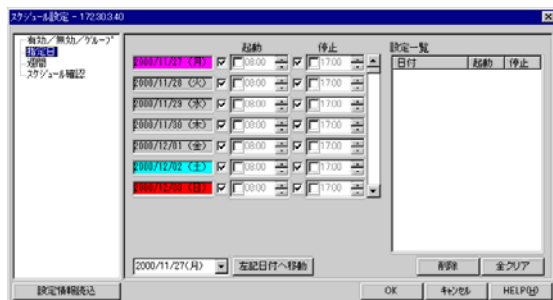


スケジュール運転の有効

(S) スケジュール運転のスケジュール設定

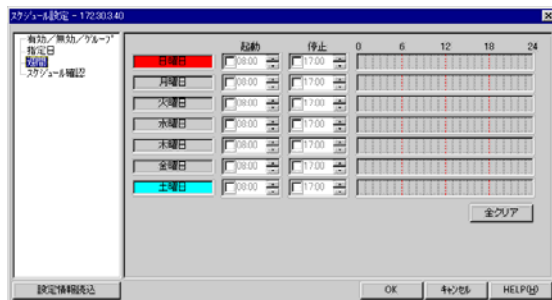
スケジュール運転を行う場合のスケジュールを設定します。

- メニューバーの「設定」－「スケジュール設定」選択
- 「指定日」（UPS）



UPS／電源管理ユニットの設定変更

- [週間] 選択 (UPS)



- [指定日] (電源管理ユニット)

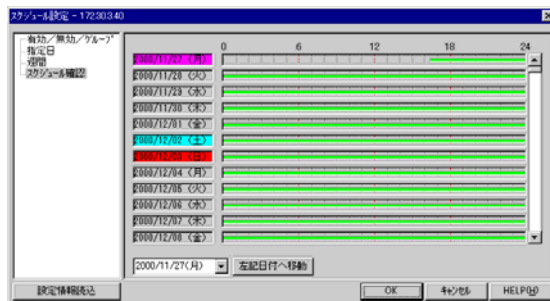


- [週間] 選択 (電源管理ユニット)



(T) スケジュール運転のスケジュール確認

- メニューバーの「設定」－「スケジュール設定」選択
- 「スケジュール確認」選択（UPS）

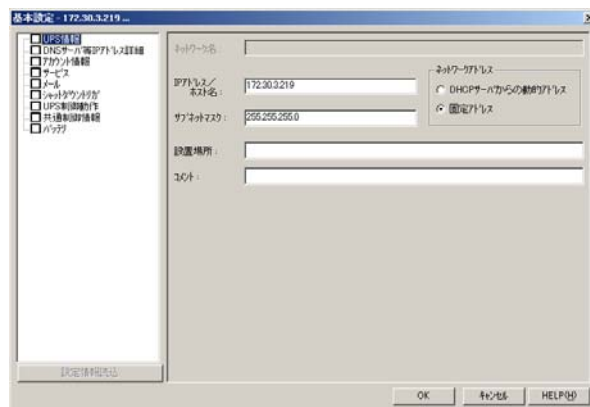


- 「スケジュール確認」選択（電源管理ユニット）

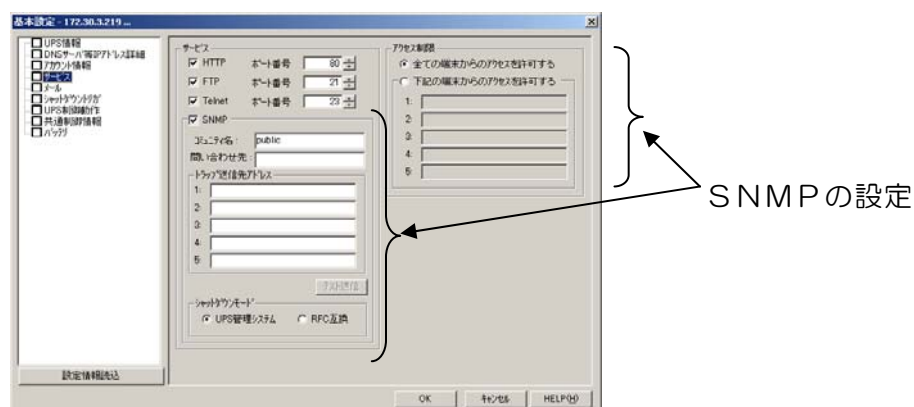


(4) SNMPの設定方法 (UPS／電源管理ユニット)

- (A) UPS 管理ツールを起動してください。
- (B) SNMPで管理するUPS を構成情報表示ウィンドウでクリックしてください。
- (C) メニューバーの[設定]－[基本設定]をクリックすると以下に示すダイアログボックスが表示されます。



- (D) プロパティ構成ウィンドウにて[サービス]をクリックすると、ダイアログボックスの表示内容がサービス情報の設定内容に切り替わります。ここでSNMPのトラップ送信先アドレスや制御などの、SNMP書き込み要求を受け付けるSNMPマネージャのアドレスを指定することができます。



- (E) プロパティ構成ウィンドウの[サービス]チェックボックスがチェックされていることを確認の上、[OK] ボタンをクリックしてください。

5.8 UPS／電源管理ユニットの制御

5.8.1 概要

UPS／電源管理ユニットに対しては以下の制御を行うことができます。

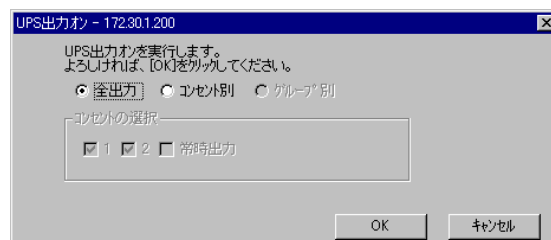
ただし、バッテリーテストに関しては、サポートしていないUPSがあります。この場合は、UPS側で要求は無視されます。

- UPS 起動／出力オン
- UPS 停止／出力オフ／リセット
- バッテリテスト開始
- バッテリテスト中止

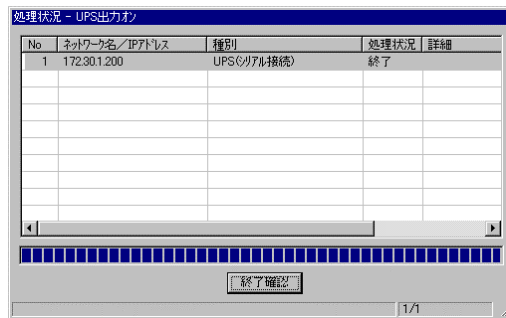
5.8.2 UPS 起動手順

(1) 構成情報表示ウィンドウの「グループ」配下から目的のUPSをクリックしてください。目的のUPSが登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従ってUPSを統合管理ツールへ登録してください。

(2) メニューバーの「制御」－「起動／出力オン」をクリックしてください。構成情報表示ウィンドウにて、UPSが選択されている場合は、「UPS 起動」（「UPS 出力オン」）ダイアログボックスが表示されます。

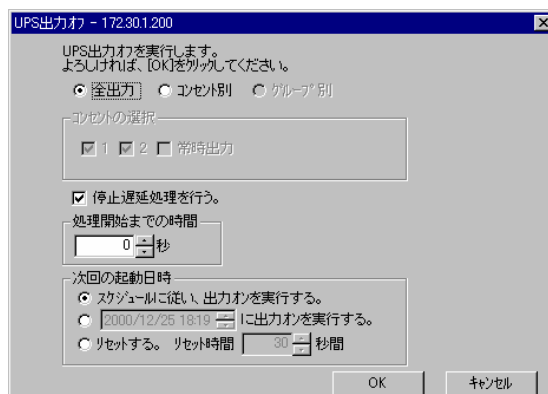


- (3) [OK] ボタンをクリックすると、[処理状況] ダイアログボックスが表示されます。「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。

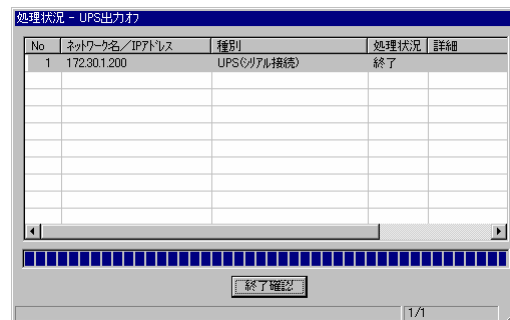


5.8.3 UPS 停止手順

- (1) 構成情報表示ウィンドウの [グループ] 配下から目的のUPSをクリックしてください。目的のUPSが登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従ってUPSを統合管理ツールへ登録してください。
- (2) メニューバーの [制御] - [停止／出力オフ／リセット] をクリックしてください。[UPS 停止] ([UPS 出力オフ]) ダイアログボックスが表示されます。なお「シャットダウンの開始」には、UPS 停止要求を受け付けてから回復不能状態になるまでの時間を指定することができます。



- (3) [OK] ボタンをクリックすると、[処理状況] ダイアログボックスが表示されます。「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。

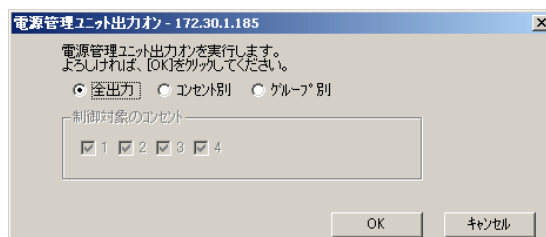


情報

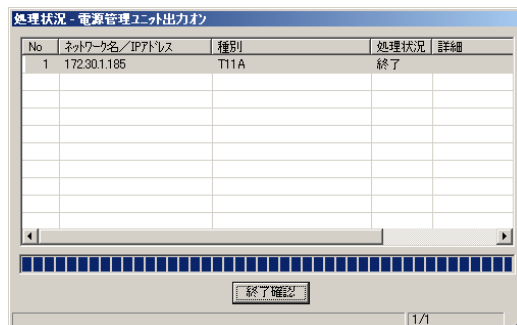
- ・「停止遅延処理を行う。」チェックボックスのチェック外すと、ログオンユーザがいる場合でも、遅延処理を行わずシャットダウンを行い、UPS を停止します。
- ・[次回の起動日時] に起動日時を指定できます。その場合は、スケジュールに設定されている日時より早い場合のみ有効となります。

5.8.4 電源管理ユニット出力オン手順

- (1) 構成情報表示ウインドウの「グループ」配下から目的のUPSをクリックしてください。目的の電源管理ユニットが登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従って電源管理ユニットを統合管理ツールへ登録してください。
- (2) メニューバーの「制御」－「起動／出力オン」をクリックしてください。構成情報表示ウインドウにて、電源管理ユニットが選択されている場合は、「電源管理ユニット出力オン」ダイアログボックスが表示されます。

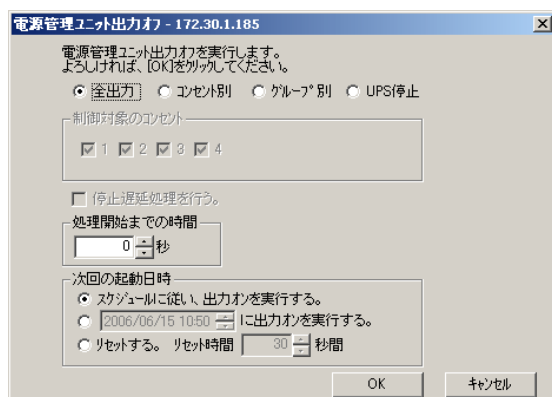


- (3) 「OK」ボタンをクリックすると、「処理状況－電源管理ユニット出力オン」ダイアログボックスが表示されます。「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。



5.8.5 電源管理ユニット出力オフ手順

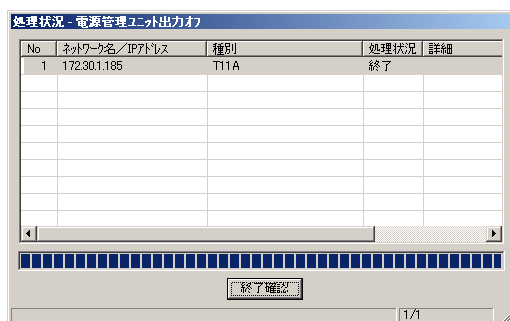
- (1) 構成情報表示ウインドウの「グループ」配下から目的の電源管理ユニットをクリックしてください。目的の電源管理ユニットが登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従って電源管理ユニットを統合管理ツールへ登録してください。
- (2) メニューバーの「制御」－「停止／出力オフ／リセット」をクリックしてください。「電源管理ユニット出力オフ」ダイアログボックスが表示されます。なお「シャットダウンの開始」には、電源管理ユニット出力オフ要求を受け付けてから回復不能状態になるまでの時間を指定することができます。



情報

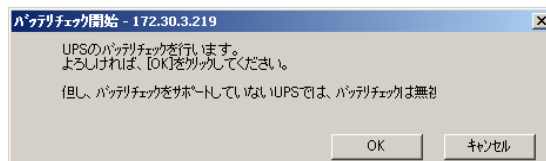
- ・UPS とシリアル連携している場合、「UPS 停止」を選択すると、全ての出力をオフした後、UPS を停止することができます。

- (3) 「OK」ボタンをクリックすると、「処理状況－電源管理ユニット出力オフ」ダイアログボックスが表示されます。「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。

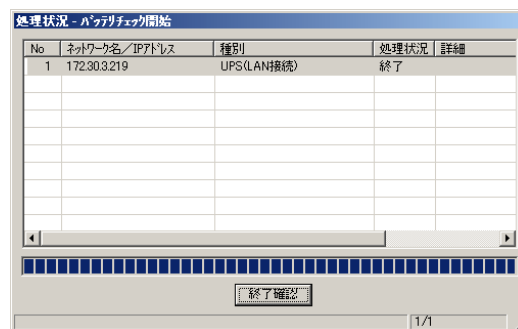


5.8.6 バッテリチェック開始手順

- (1) 構成情報表示ウインドウの「グループ」配下から目的のUPSをクリックしてください。目的のUPSが登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従ってUPSを統合管理ツールへ登録してください。
- (2) メニューバーの「制御」－「バッテリチェック開始」をクリックしてください。

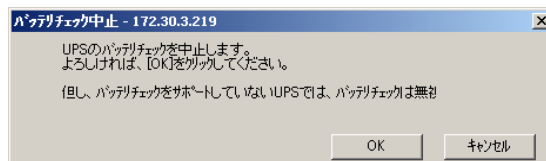


- (3) 「OK」ボタンをクリックすると、「処理状況－バッテリチェック開始」ダイアログボックスが表示されます。「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。

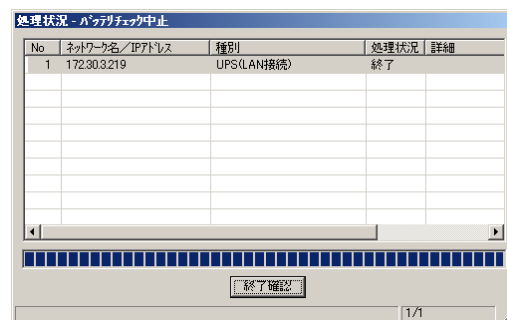


5.8.7 バッテリチェック中止手順

- (1) 構成情報表示ウインドウの「グループ」配下から目的のUPSをクリックしてください。目的のUPSが登録されていない場合は「5.4.2 UPS／電源管理ユニット」に従ってUPSを統合管理ツールへ登録してください。
- (2) メニューバーの「制御」－「バッテリチェック中止」をクリックしてください。



- (3) 「OK」ボタンをクリックすると、「処理状況－バッテリチェック中止」ダイアログボックスが表示されます。「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。



5.9 UPS／電源管理ユニットの情報表示

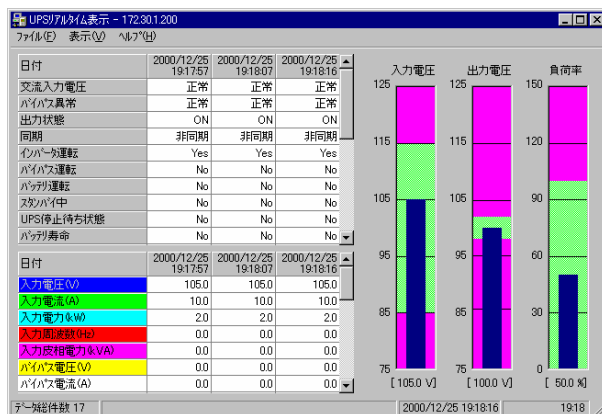
BPSPOC-Ⅱ COMBINATION では、リアルタイムでの監視のほか、UPS の状態および、計測値の詳細を UPS に接続されている PC で保存することができます。UPS 内部でも、計測値を除く各種動作履歴を保存しています。

保存する条件は、以下に示される画面で設定することができます。

- ①「5.7.2 (1) (B) ① PCでUPSの情報を記録する条件、間隔および記録期間」
- ②「5.7.2 (1) (J) PCで記録するイベントの種類（イベント毎）」
- ③「5.7.2 (3) (N) UPSで記録するイベントの種類（イベント毎）」

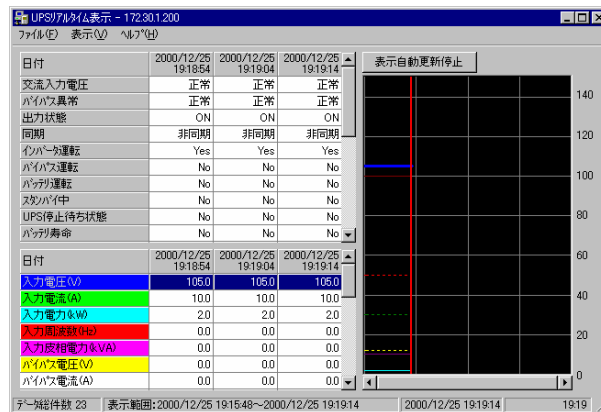
5.9.1 UPS の状態・計測値のリアルタイム表示

- (1) 構成情報表示ウィンドウにて目的とする UPS を選択し、メニューバーの[表示]－[UPS リアルタイム表示]をクリックすると、UPS の現在の情報が[UPS リアルタイム表示]ウィンドウに表示されます。



※計測情報転送機能がないUPS の場合、計測情報は表示されません。

- (2) メニューバーの[表示]－[グラフタイプ]－[折れ線グラフ]を選択し、バーグラフを折れ線グラフに変更します。折れ線グラフのグラフ上部にある、「表示自動更新停止」ボタンをクリックして更新を停止すると、グラフ上のカーソル（赤の縦線）の移動が可能となります。グラフ上をクリックしてカーソルを移動するとその前後の詳細な値が左の表にて表示されます。



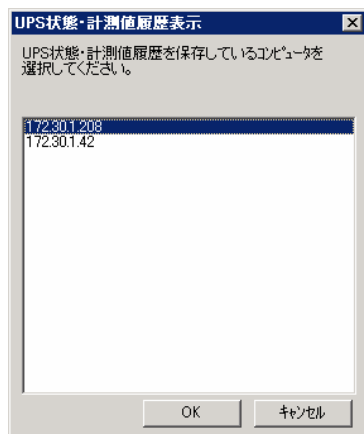
※計測情報転送機能がない UPS の場合、計測情報は表示されません。

- (3) グラフの更新を停止するには、折れ線グラフのグラフ上部にある、「表示自動更新停止」ボタンをクリックするとグラフの更新は停止します。「表示自動更新開始」ボタンをクリックすると、グラフがリアルタイムで更新されるようになります。

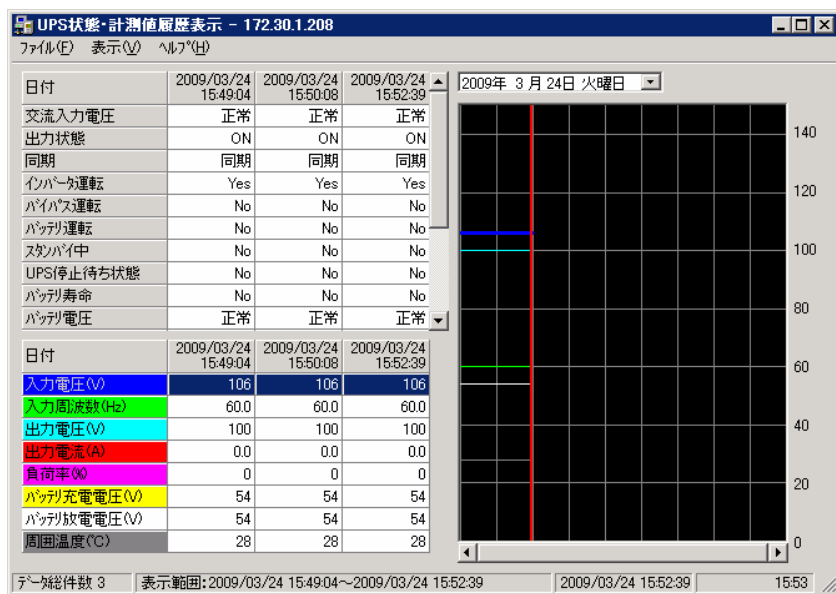
5.9.2 UPS の状態・計測値の履歴表示

UPS の状態・計測値の履歴は UPS に接続されるコンピュータに保存することができます。表示の際は、指定したコンピュータからデータを取得します。

- (1) 構成情報表示ウィンドウにて目的とする UPS を選択し、メニューバーの「表示」－「UPS 状態・計測値履歴表示」をクリックすると、「UPS 状態・計測値履歴表示」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには UPS に接続されているコンピュータの一覧が表示されていますので、目的のコンピュータを選択して、「OK」ボタンをクリックしてください。



- (2) 選択したコンピュータに保存されている情報が、「UPS 状態・計測値履歴表示」ウィンドウに表示されます。



※計測情報転送機能がない UPS の場合、計測情報は表示されません。

5.9.3 UPS／電源管理ユニット内部に記録されたログの表示

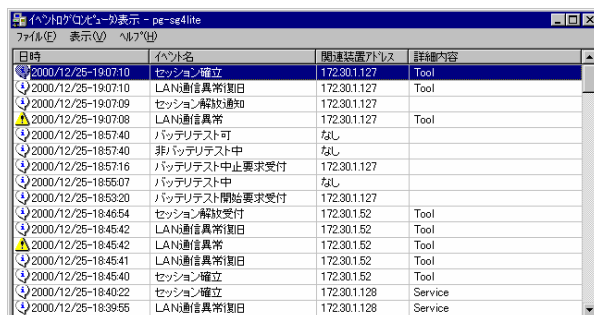
- (1) 構成情報表示ウィンドウにて目的とするUPS および電源管理ユニットを選択し、メニューバーの[表示]－[イベントログ（UPS／電源管理ユニット）表示]をクリックすると、UPS および電源管理ユニット内部に保存されている情報が、[イベントログ（UPS／電源管理ユニット）表示] ウィンドウに表示されます。



日時	イベント名	関連装置アドレス	詳細内容
2000/12/25-185716	バッテリーテスト中止要求受付	172.301.127	
2000/12/25-185320	バッテリーテスト開始要求受付	172.301.127	
2000/12/25-183811	出力オン	なし	OUTLET 2
2000/12/25-183811	出力オン	なし	OUTLET 1
2000/12/25-183630	UPS起動要求受付	172.301.127	
2000/12/25-183359	出力オフ	なし	OUTLET 2
2000/12/25-183359	出力オフ	なし	OUTLET 1
2000/12/25-183341	出力オフ要求受付	172.301.127	
2000/12/25-183226	シャットダウン実行	172.301.128	
2000/12/25-183226	シャットダウン実行	172.301.161	
2000/12/25-183156	UPS起動(シリアル)	なし	OUTLET 0
2000/12/25-183155	回復不能(モート停止)/回復不...	なし	クールからの要求(2)
2000/12/25-183155	回復不能(モート停止)/回復不...	なし	クールからの要求(1)
2000/12/25-183155	出力オフ要求受付	172.301.127	
2000/12/25-181115	設定変更	172.301.128	0x0010
2000/12/25-180713	設定変更	172.301.128	0x0010

5.9.4 コンピュータ内部に記録されたログの表示

- (1) 構成情報表示ウィンドウにて、メニューバーの[表示]－[イベントログ（コンピュータ）表示]をクリックすると、コンピュータ内部に保存されている情報が、[イベントログ（コンピュータ）表示] ウィンドウに表示されます。

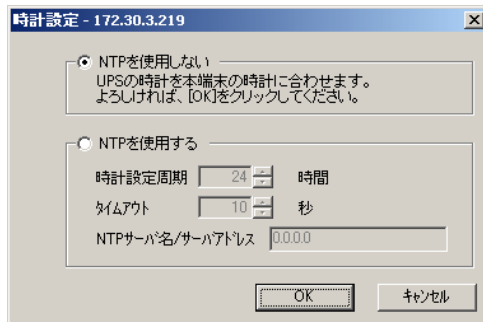


日時	イベント名	関連装置アドレス	詳細内容
2000/12/25-190710	セッション確立	172.301.127	Tool
2000/12/25-190710	LAN通信異常(割)	172.301.127	Tool
2000/12/25-190709	セッション解放通知	172.301.127	
2000/12/25-190708	LAN通信異常	172.301.127	Tool
2000/12/25-185740	バッテリーテスト可	なし	
2000/12/25-185740	非バッテリーテスト中	なし	
2000/12/25-185716	バッテリーテスト中止要求受付	172.301.127	
2000/12/25-185607	バッテリーテスト中	なし	
2000/12/25-185320	バッテリーテスト開始要求受付	172.301.127	
2000/12/25-184654	セッション解放受付	172.301.152	Tool
2000/12/25-184642	LAN通信異常(割)	172.301.152	Tool
2000/12/25-184642	LAN通信異常	172.301.152	Tool
2000/12/25-184641	LAN通信異常(割)	172.301.152	Tool
2000/12/25-184640	セッション確立	172.301.152	Tool
2000/12/25-184022	セッション確立	172.301.128	Service
2000/12/25-183955	LAN通信異常(割)	172.301.128	Service

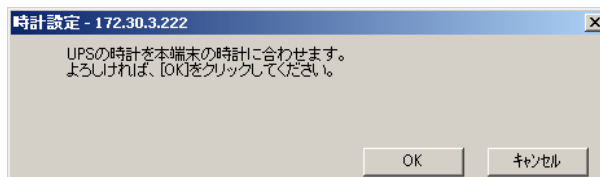
5.9.5 時計設定

- (1) 構成情報表示ウインドウにて、メニューバーの「設定」－「時計設定」をクリックすると、UPS／電源管理ユニットの時計設定画面が表示されます。

- NTPに対応している装置の場合の画面



- NTPに対応していない装置の場合の画面



- (2) NTPサーバによる時刻同期を行う場合は、「NTPを使用する」を選択し、NTPサーバのアドレス、時計設定周期等の設定を行います。
- (3) 本ソフトウェアがインストールされているコンピュータに時刻を合わせる場合、「NTPを使用しない」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

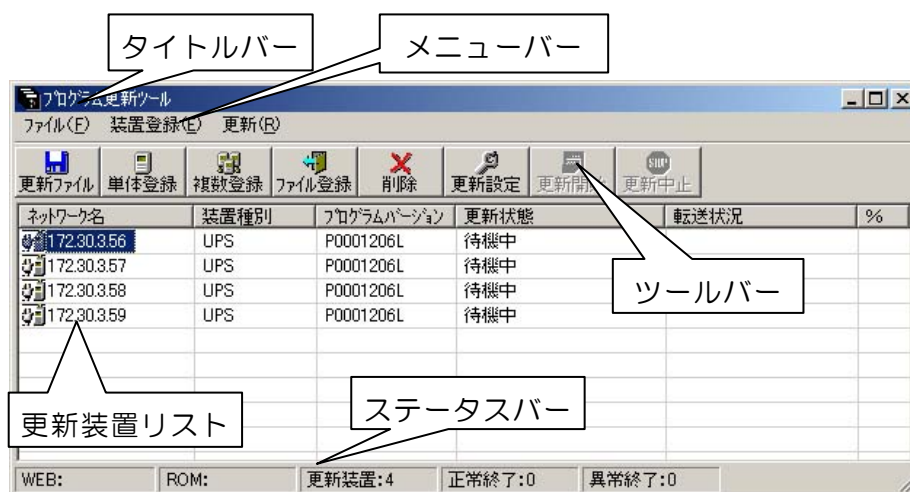
5.10 UPS／電源管理ユニットのプログラム更新

将来の UPS 管理システムの機能拡張に柔軟に対応できるように、UPS（LAN インタフェースカード）および電源管理ユニットのプログラムをリモートから更新することができます。

5.10.1 起動

統合管理ツールの構成情報表示ウインドウから目的とする UPS または、電源管理ユニットを選択し、メニューバーの〔設定〕－〔プログラム更新〕をクリックすると、選択した UPS または電源管理ユニットが更新装置リストに表示され、〔プログラム更新ツール〕が起動します。

注：装置種別の異なる装置は、一緒に選択できません。



(1) 更新装置リスト

更新対象となる装置の情報および更新処理の状態を一覧表示します。

項 目	表 示 内 容
ネットワーク名	対象装置のネットワーク名または IP アドレスを表示します。
装置種別	UPS または電源管理ユニットの種別を表示します。
プログラムバージョン	ROM または WEB のプログラムバージョンを表示します。
更新状態	処理毎の状態を表示します。
転送状況	転送状況をインジケータで表示します。
%	転送状況を進捗割合（数値）で表示します。

(2) ステータスバー

プログラム名および更新処理の状態を表示します。

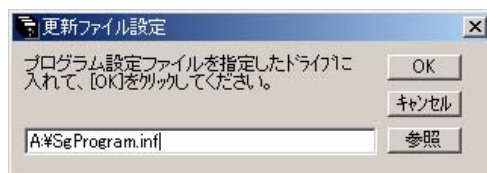
項 目	表 示 内 容
WEB	更新元となる WEB プログラムファイル名を表示します。
ROM	更新元となる ROM プログラムファイル名を表示します。
更新装置	更新装置の台数を表示します。
正常終了	更新が正常終了した装置の台数を表示します。
異常終了	更新が異常終了した装置の台数を表示します。

5.10.2 更新ファイルの設定

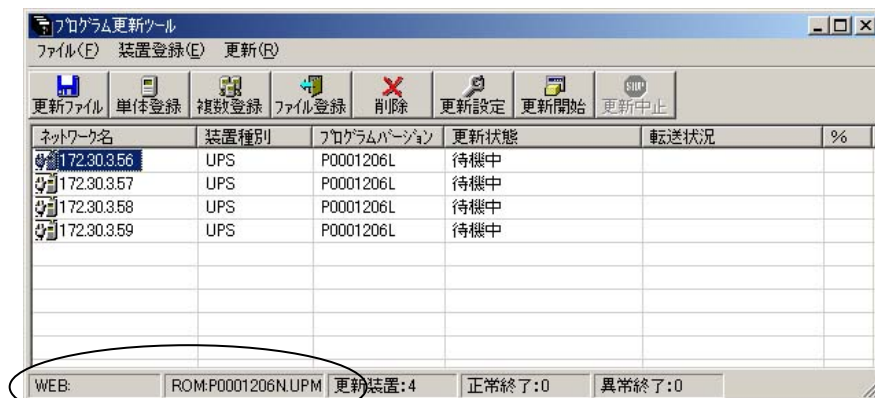
更新元となる WEB プログラムファイルおよび ROM プログラムファイルをメモリ上に読み込みます。

(1) ツールバーの [更新ファイル] ボタン（または、メニューバーの「ファイル」－「更新ファイル」）をクリックしてください。

(2) プログラム設定ファイル名 (*.inf) を入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。[参照] ボタンによりプログラム設定ファイル (*.inf) を検索することも可能です。



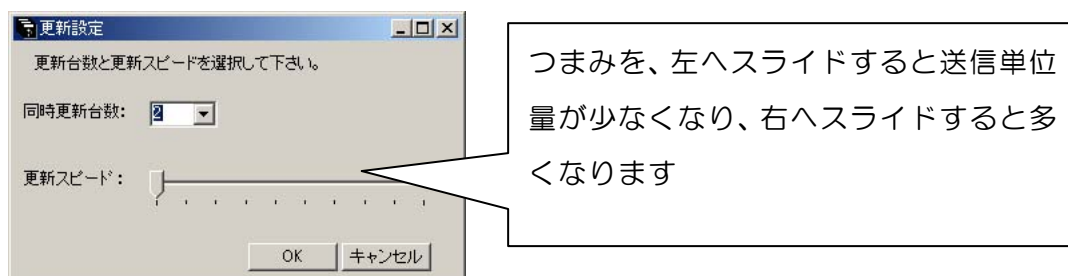
(3) 更新するプログラムファイルが正常に読み込まれた場合は、メインウィンドウのステータスバーにプログラムファイル名が表示されます。



5.10.3 更新条件を設定する（更新設定）

複数の装置に対してプログラム更新を行う場合に、同時に処理する台数を設定することができます。また、データの送信単位量を変更することにより、更新スピードを調整することができます。

- (1) ツールバーの「更新設定」ボタン（または、メニューバーの「更新」－「更新設定」）をクリックしてください。
- (2) 「同時更新台数」と「更新スピード」を設定し、「OK」ボタンをクリックしてください。



以下の範囲で設定できます。

更新台数：1～10台

更新スピード：1～10

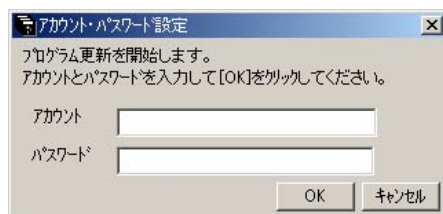
注意

データ量を多く設定すると、ネットワークトラフィックの状態によっては更新が正常終了できなくなる可能性があります。その場合、データ量を少なめに設定して、再度、更新処理を行ってください。

5.10.4 更新を開始する

更新ファイルの設定が行われると、[更新開始] ボタンが有効となります。WEB プログラムと ROM プログラムの両方を更新する場合は、WEB プログラムから更新を行います。

- (1) ツールバーの[更新開始] ボタン（または、メニューバーの「更新」－「更新開始」）をクリックしてください。
- (2) 装置のアカウントとパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。



- (3) 更新設定で指定された台数ずつ更新処理が行われ、更新の進捗状況がメインウィンドウに表示されます。



注意

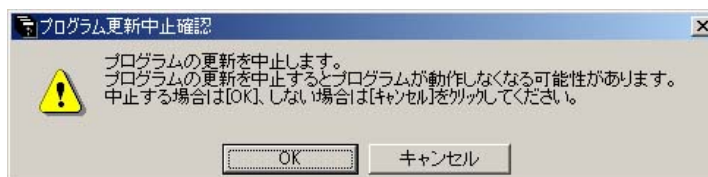
- ①各装置のアカウント／パスワードが認証画面で入力したものと異なる場合、通信異常（異常終了）として処理されます。
- ②プログラム転送中は、統合管理ツールから設定変更等を行わないでください。
プログラム転送中に設定変更等を行うと、通信異常のため、処理できない旨のダイアログメッセージが表示されます。
- ③プログラム転送中に停電が発生した場合は、プログラム更新は中止されます。
- ④LAN インタフェースカードの再起動にかかる時間はおよそ30秒程度です。この間は、一切の設定、監視および、制御が行えません。

- (4) 装置の更新が全て正常終了すると、[更新開始] ボタンは無効となります。但し、異常終了した装置がある場合、または、装置を追加した場合は、それら装置についてのみ、再度、更新を行います。

5.10.5 更新を中止する

- (1) ツールバーの[更新中止] ボタン（または、メニューバーの「更新」－「更新中止」）をクリックしてください。

- (2) 中止確認ダイアログの[OK] ボタンクリックにより、更新処理が中止されます。



注意

WEB プログラムは、更新を中止するとプログラムが動作しなくなります。

5.10.6 プログラム更新ツールを終了する

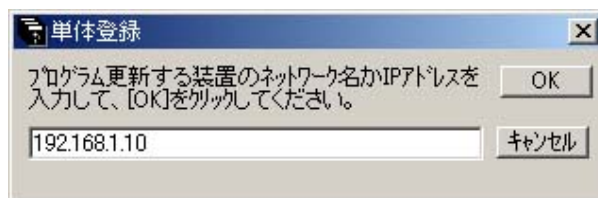
メニューバーの「ファイル」－「終了」（または、タイトルバーの[×] ボタン）をクリックすると、プログラム更新ツールが終了します。

注意

プログラム更新は、統合管理ツールとは別にプログラム更新ツールで提供しています。統合管理ツールを終了しても、プログラム更新ツールは終了しませんので、プログラム更新ツールの終了を選択してください。

5.10.7 更新対象装置の登録

- (1) ツールバーの[単体登録] ボタン（または、メニューバーの「装置登録」－「単体登録」）をクリックして、登録する装置のネットワーク名またはIPアドレスを入力し、[OK] ボタンをクリックすると、1 台の装置を追加する（単体登録）ことができます。



- (2) 更新対象となる装置がネットワーク上に複数ある場合、ツールバーの[複数登録] ボタン（または、メニューバーの「装置登録」－「複数登録」）をクリックすると、ネットワーク上で通信可能な状態の装置が一覧表示されます。
- 登録する装置を選択し、[OK] ボタンをクリックすると、選択した装置を一括して追加することができます。

注意 1

ルータを超えての検索はできません。

その場合、[単体登録]にて直接IPアドレスを入力してください。

注意 2

装置種別の異なる装置は、一緒に登録できません。

- (3) ツールバーの[ファイル登録] ボタン（または、メニューバーの「装置登録」－「ファイル登録」）をクリックして、装置登録ファイル名 (*.lst) を入力し、[OK] ボタンをクリックすると、予め作成してある、更新対象となる装置一覧ファイルを読み込み、一括して登録することができます。

装置登録ファイルの例

ファイル名：UPS.lst

拡張子が「lst」となるように名前を付けます

```
; コメント 1
192.168.1.1 0      ; コメント 2
asama11           ; コメント 3
192.168.1.2 0      ; コメント 4
```

行の先頭または途中に「;」がある場合、「;」以降はコメントとして扱われます。

5.10.8 更新対象装置の削除

メインウィンドウの更新装置リストから削除する装置を選択し、ツールバーの[削除] ボタン（または、メニューバーの「装置登録」－「削除」）をクリックすると、選択した装置を更新対象装置のリストから削除します。

5.11 複数 UPS／電源管理ユニットの操作

統合管理ツールを利用することで、複数のコンピュータおよび、UPS および電源管理ユニットへの設定制御を一括して行うことができます。

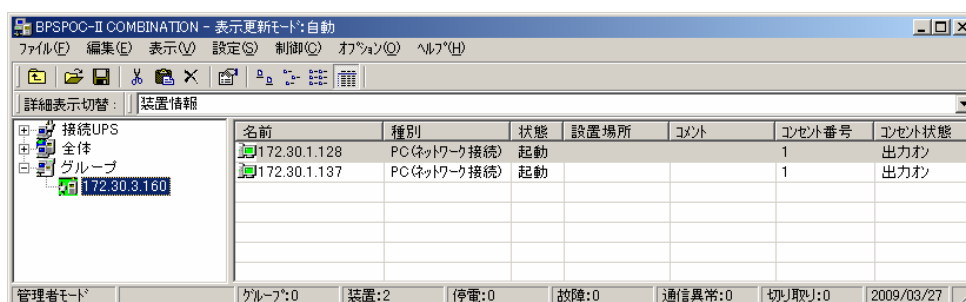
たとえば、システムグループのプロパティウインドウを表示すると、[シャットダウントリガ] を設定する画面があります。この設定値を[設定情報読込]により読込、画面上に設定し[OK]ボタンをクリックすると、システムグループに登録されている全ての UPS に対して [シャットダウントリガ] の設定値が設定されます。

同様に複数の UPS を選択した場合でも、一括で設定することができます。

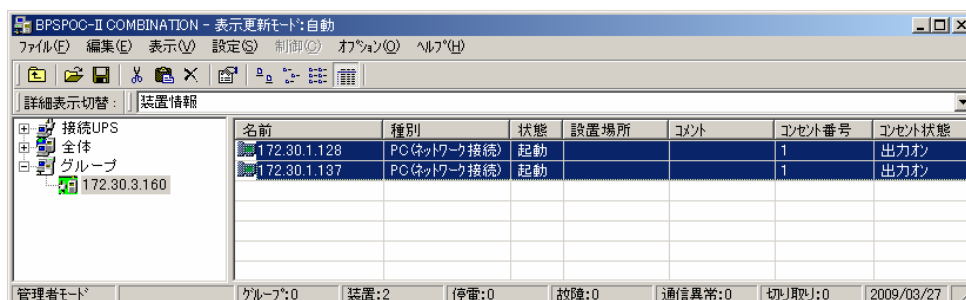
5.11.1 UPS 配下の複数コンピュータへの一括設定例

UPS 配下の指定したコンピュータへ一括設定を行うことができます。基本設定、イベント設定も同様です。以下に基本設定を行う場合の例を示します。

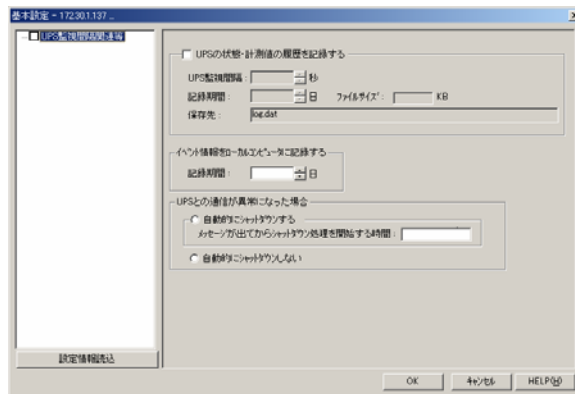
- (1) 構成情報表示ウインドウにて目的の UPS をクリックし、詳細表示ウインドウに UPS に登録されているコンピュータを表示してください。



- (2) 詳細表示ウインドウにて [SHIFT] キーまたは [Ctrl] キーを押しながら目的のコンピュータをクリックすると、複数のコンピュータを選択することができます。



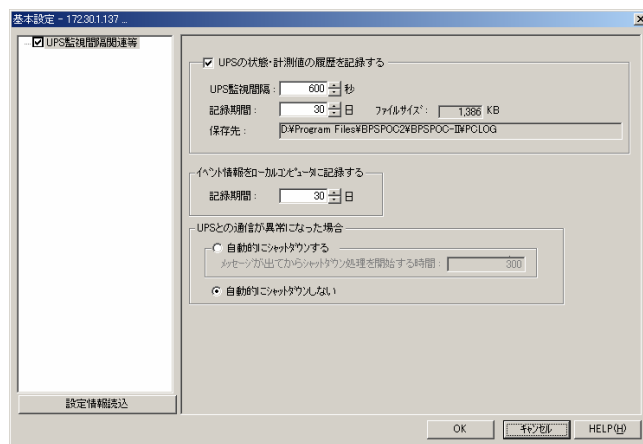
- (3) メニューバーの「設定」－「基本設定」をクリックすると、「UPS 監視間隔関連等」ダイアログボックスが表示されます。この時、UPS 監視間隔の時間などが空白の状態が表示されています。



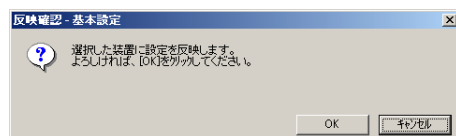
- (4) この状態で「設定情報読み込」ボタンをクリックすると、「設定情報読み込」ダイアログボックスが表示されます。このウィンドウにて、「UPS 監視間隔関連等」の値のコピー元となるコンピュータを指定してください。



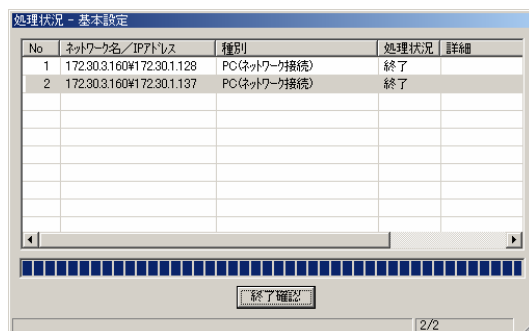
- (5) [OK] ボタンをクリックすると、先ほど指定したコンピュータから設定値を取得し、画面上に表示されます。[UPS 監視間隔関連等] チェックボックスは自動的にチェックされます。



- (6) [OK] ボタンをクリックすると確認のためのダイアログボックスが表示されます。



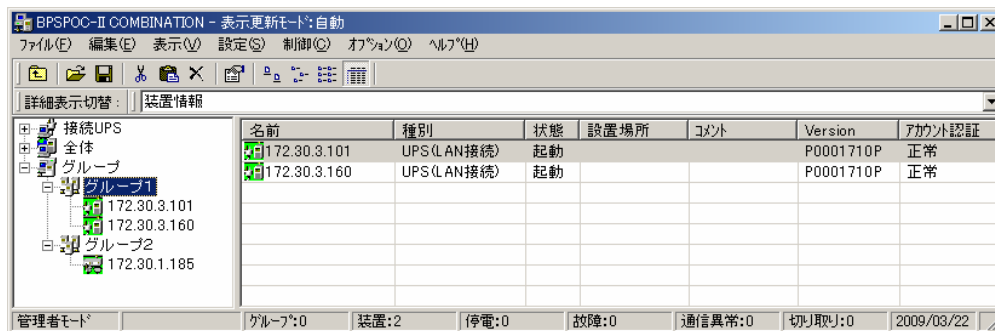
- (7) [OK] ボタンをクリックすると、[処理状況－基本設定] ダイアログボックスが表示されます。一覧には指定した UPS 配下の全ての装置が表示されます。[状態] が [終了] となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。



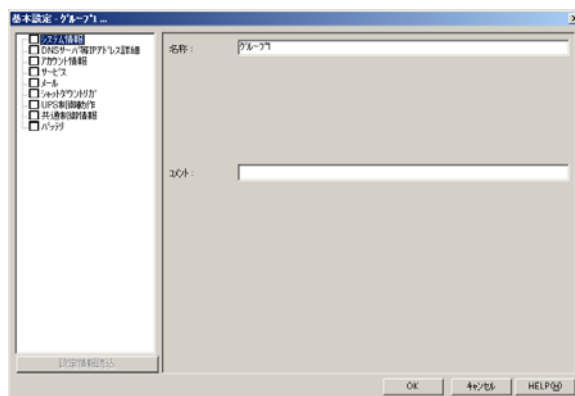
5.11.2 グループ配下の複数 UPS、電源管理ユニットへの一括設定例

指定したシステムグループ配下の UPS へ一括設定を行うことができます。基本設定、イベント設定、スケジュール設定も同様です。以下に基本設定を行う場合の例を示します。

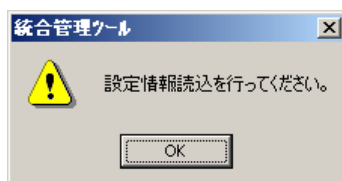
- (1) 構成情報表示ウィンドウにて目的とする UPS が含まれるグループを選択します。



- (2) メニューバーの [設定] - [基本設定] をクリックすると [基本設定] ダイアログボックスが表示されます。



- (3) [シャットダウントリガ] をクリックして表示項目を切替えてください。反映させる情報を読み込む必要がある旨のメッセージボックスが表示されます。



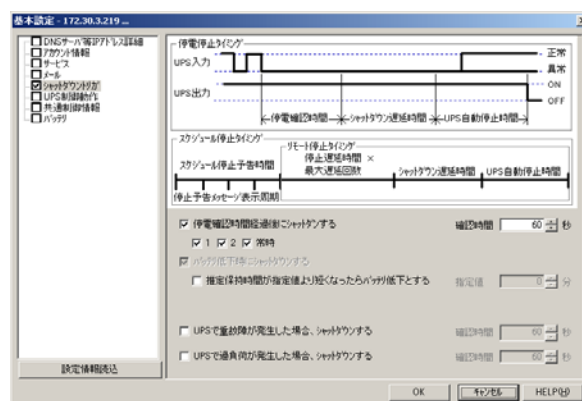
- (4) [OK]をクリックすると、シャットダウントリガの情報が空白の状態に表示されています。



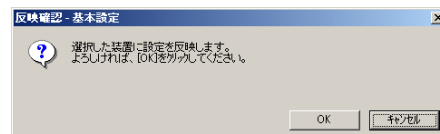
- (5) この状態で「設定情報読み」ボタンをクリックすると、「設定情報読み」ダイアログボックスが表示されます。このウインドウにて、「シャットダウントリガ」の値のコピー元となるUPSを指定してください。



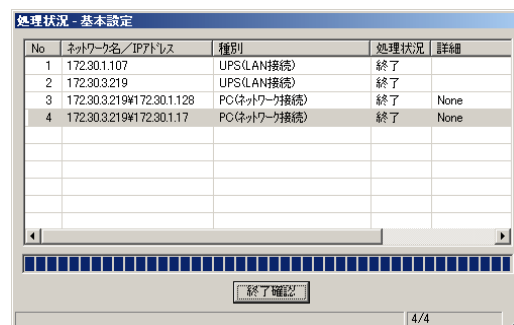
- (6) [OK] ボタンをクリックすると、先ほど指定した UPS から設定値を取得し、画面上に表示されます。「シャットダウントリガ」チェックボックスは自動的にチェックされます。



- (7) [OK] ボタンをクリックすると確認のためのダイアログボックスが表示されます。



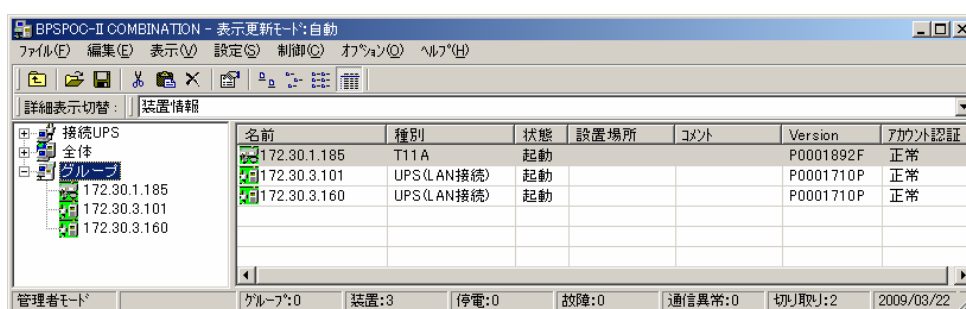
- (8) [OK] ボタンをクリックすると、[処理状況－基本設定] ダイアログボックスが表示されます。一覧には指定したグループ配下全ての装置が表示されます。[状態] が [終了] となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。



5.11.3 特定 UPS および配下への一括設定例

グループに左右されない、複数の特定の UPS に対して一括設定を行うことができます。基本設定、イベント設定、スケジュール設定も同様です。以下に基本設定を行う場合の例を示します。

- (1) 構成情報表示ウィンドウにて [全体]、[グループ] および、その配下をクリックして、詳細表示ウィンドウに目的の UPS または電源管理ユニットを表示してください。



- (2) 詳細表示ウィンドウにて [SHIFT] キーまたは [Ctrl] キーを押しながら目的の UPS または、電源管理ユニットをクリックすると複数の UPS および電源管理ユニットを選択することができます。



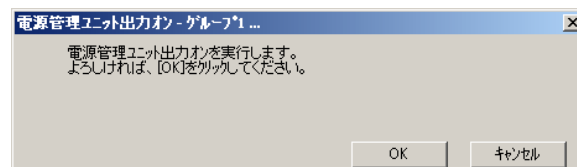
- (3) メニューバーの [設定] - [基本設定] をクリックすると基本設定のダイアログウィンドウが表示されます。以降の操作は「5.11.2 グループ配下の複数UPS、電源管理ユニットへの一括設定例」と同様です。

5.11.4 複数 UPS の一括制御

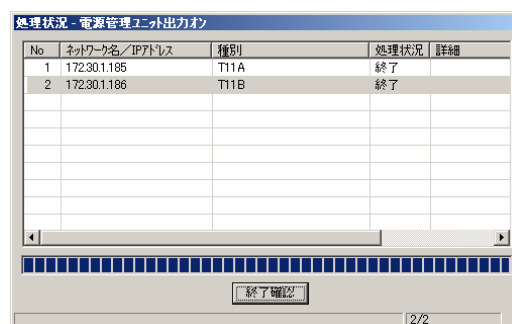
指定した [グループ] 配下の UPS および電源管理ユニットの一括制御を行うことができます。

(1) 電源管理ユニットの複数起動

- (A) 構成情報表示ウィンドウにて目的の [グループ] 配下のグループをクリックして、メニューバーの [制御] - [起動／出力オン] をクリックすると [電源管理ユニット出力オン] ダイアログボックスが表示されます。



- (B) [OK] ボタンをクリックすると、[処理状況] ダイアログボックスが表示されます。一覧には指定したグループ配下の全ての電源管理ユニットが表示されます。[状態] が [終了] となった後、[終了確認] ボタンをクリックしてください。

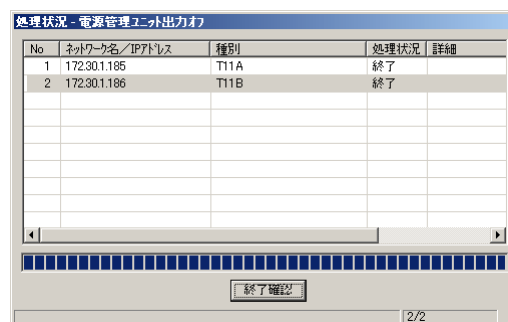


(2) 電源管理ユニットの複数停止

- (A) 構成情報表示ウィンドウにて目的の「グループ」配下のグループをクリックし、メニューバーの「制御」－「停止／出力オフ／リセット」をクリックすると「電源管理ユニット出力オフ」ダイアログボックスが表示されます。



- (B) 「OK」ボタンをクリックすると、「処理状況」ダイアログボックスが表示されます。一覧には指定したグループ配下の全てのUPSが表示されます。「状態」が「終了」となった後、「終了確認」ボタンをクリックしてください。なお、UPS停止要求時の設定内容については「5.8.5 電源管理ユニット出力オフ手順」を参照してください。



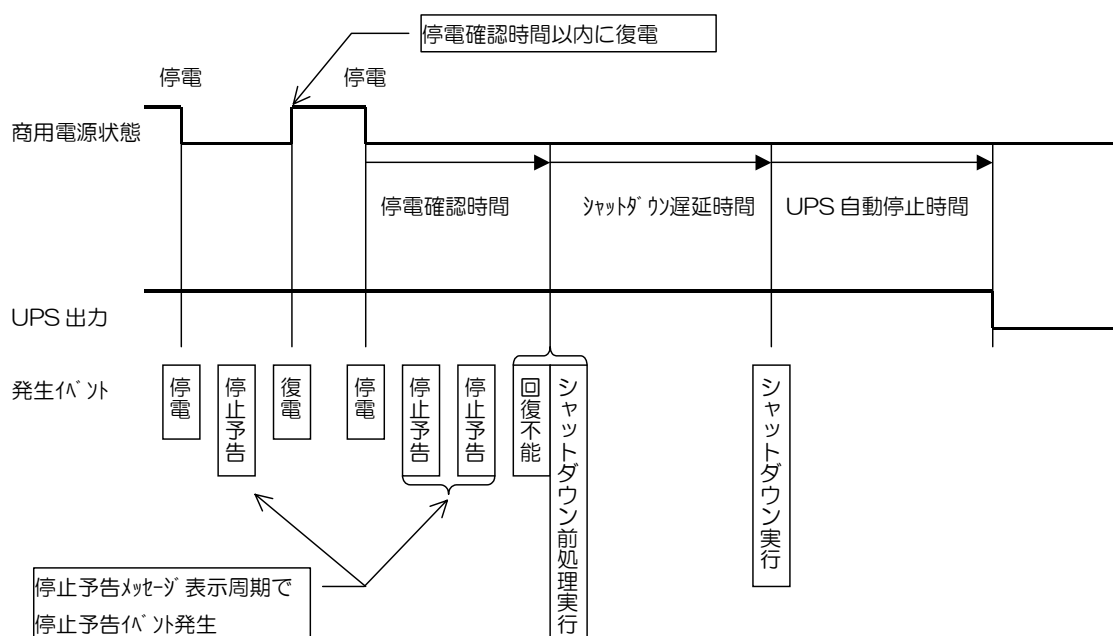
付録A 動作シーケンス

UPS 管理システムでは、さまざまな事象を「イベント」として定義しています。

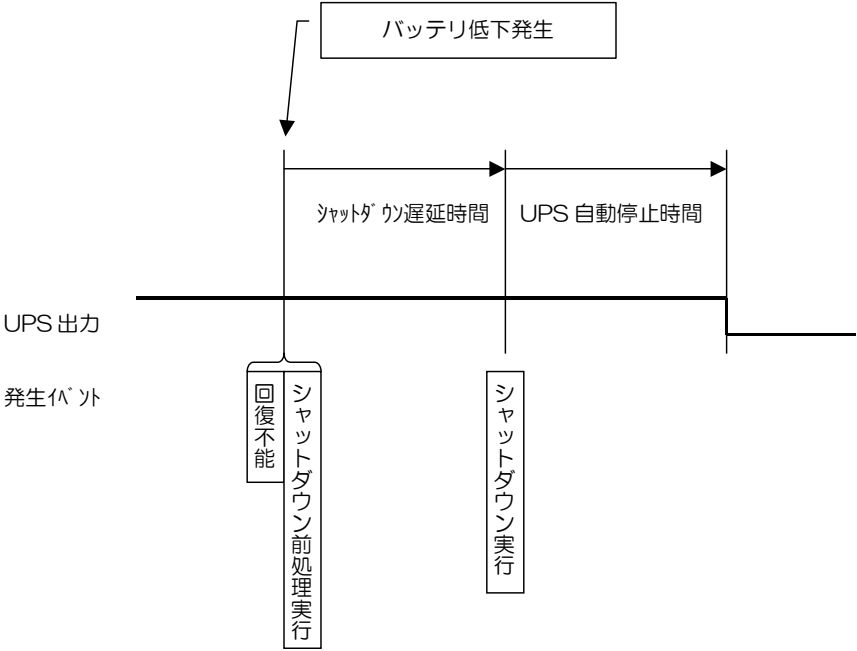
このイベント毎にメッセージの送信の有無、メッセージ内容、スクリプトの実行内容などを設定します。以下に UPS の動作、および関連する主なイベントを示します。

イベントについての詳細な説明は、統合管理ツールのオンラインマニュアルをご覧ください。

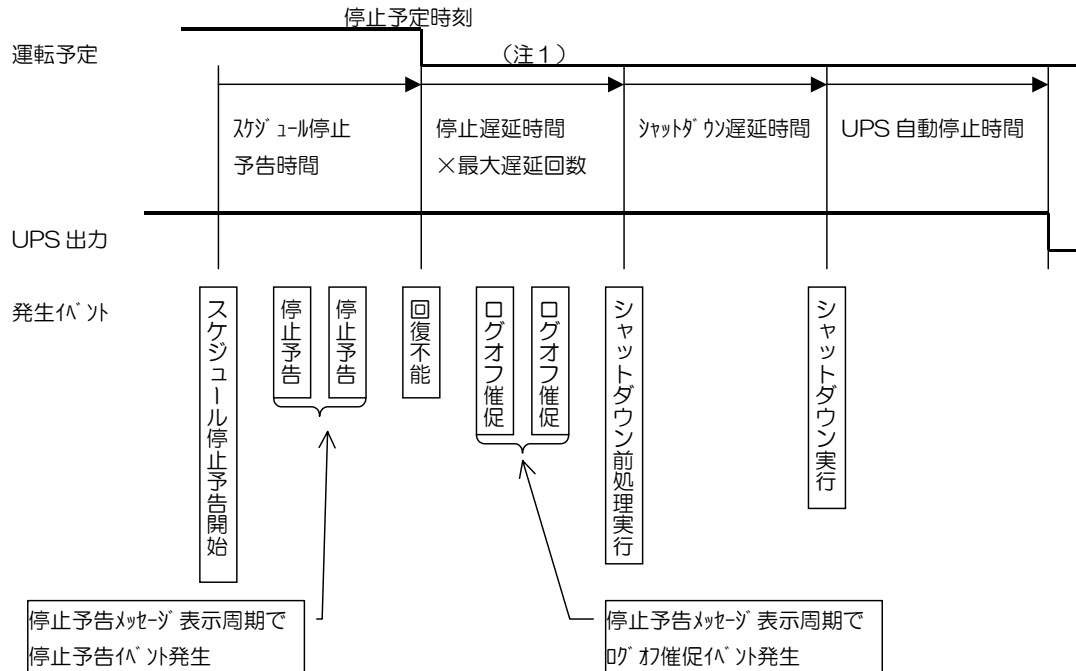
停電時シーケンス



バッテリー低下時シーケンス

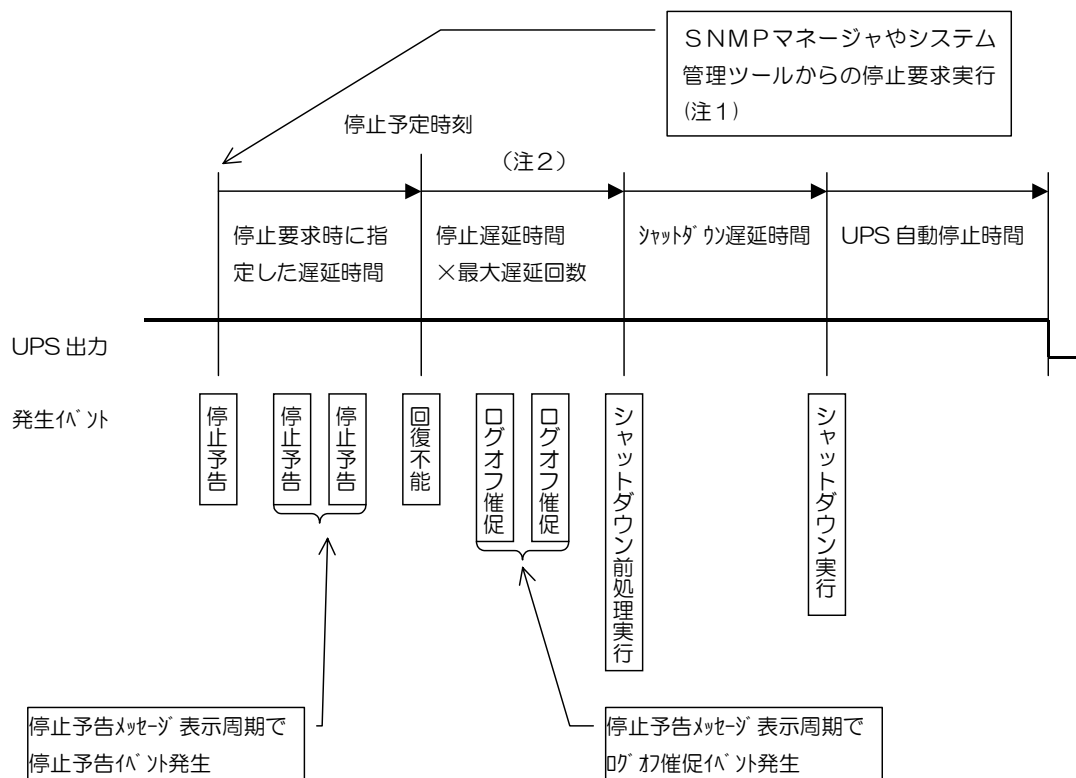


スケジュール運転時シーケンス



注1) 停止遅延を行うように設定されている場合に有効です。この場合、コンピュータにログオンしているユーザーがいる場合は、ログオフを催促するメッセージを表示し、シャットダウン前処理やシャットダウンの実行を遅らせることができます。停止遅延を行わない設定にしている場合は、回復不能とシャットダウン前処理実行のイベントが連続して発生します。

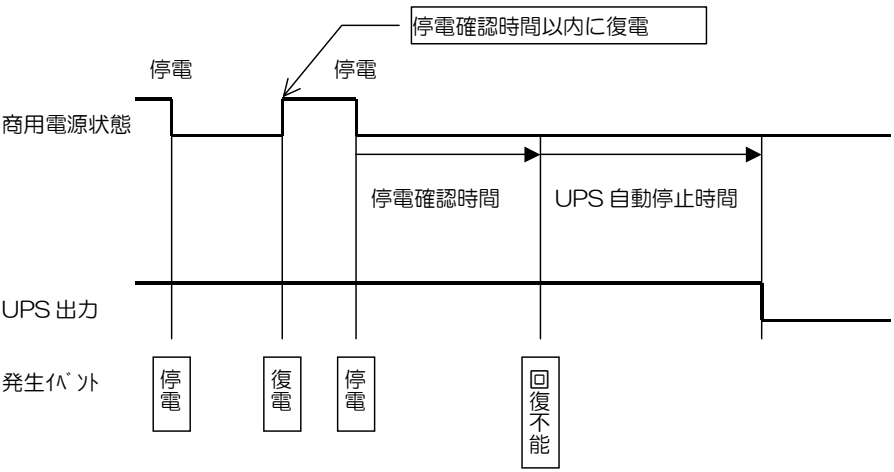
リモート制御時シーケンス



注1) UPSのリモートスイッチによる停止の場合は、即座に回復不能状態となります。従って停止予告イベントは発生しません。

注2) 停止遅延を行うように設定されている場合に有効です。この場合、コンピュータにログオンしているユーザがいる場合は、ログオフを催促するメッセージを表示し、シャットダウン前処理やシャットダウンの実行を遅らせることができます。停止遅延を行わない設定にしている場合は、回復不能とシャットダウン前処理実行のイベントが連続して発生します。

コンピュータが1台も接続されていない場合の停止シーケンス



付録 B UPS (LAN インタフェースカード) / 電源管理ユニットの IP アドレス変更方法

出荷時のデフォルトの IP アドレスは **192.168.1.1** ですので、通常は設置する環境に対応した IP アドレスに変更する必要があります。IP アドレスを変更するには LAN を介して変更することも、シリアルポートを介して変更することもできます。

(3) LAN を介して設定する場合

Telnet や Web ブラウザを利用する場合は、PC と UPS が TCP / IP レベルで通信できる必要があります。

ネットワークセグメントのクラス設定などの理由により、設定用の PC が 192.168.1.1 の UPS と直接通信できない場合は、UPS と通信できるように「(A) PC のネットワーク環境の変更」に示す操作から順次、行ってください。

192.168.1.1 の UPS と PC が通信できる場合は、「(B) UPS の IP アドレスの変更」に示す操作のみを行ってください。

(A) PC のネットワーク環境の変更

PC のコマンドプロンプトウィンドウから以下のコマンドを実行してください。

route add 192.168.1.1 MASK 255.255.255.255 <PC の IP アドレス>

例) コンピュータの IP アドレスが 172.30.1.10 の場合

```
C:\WINNT>route add 192.168.1.1 MASK 255.255.255.255 172.30.1.10
C:\WINNT>
```

これで、UPS と通信ができるようになります。(UPS の IP アドレス設定後は、「(C) PC のネットワーク環境の変更」に示す操作を行ってください。)

(B) UPS の IP アドレスの変更

Telnet や Web ブラウザを起動して UPS の IP アドレスを変更します。操作方法については「LAN インタフェースカードまたは、電源管理ユニットのユーザガイド」を参照してください。

(C) PC のネットワーク環境の変更

作業が終了した後は、PC のネットワーク環境を元に戻します。

PC のコマンドプロンプトウィンドウから以下のコマンドを実行してください。

```
route delete 192.168.1.1
```

(4) シリアルポートを介して設定する場合

UPS (LAN インタフェースカード) または、電源管理ユニットと PC を D-SUB9 ピンのクロスケーブルで接続し汎用のターミナルソフトウェアを利用して設定を行います。

操作方法については「LAN インタフェースカードまたは、電源管理ユニットのユーザガイド」を参照してください。

付録C 一般ユーザモードの制限事項

一般ユーザは、編集機能、設定変更および制御機能が使用できないなどの制限があります。管理者は、全ての機能が使用できます。

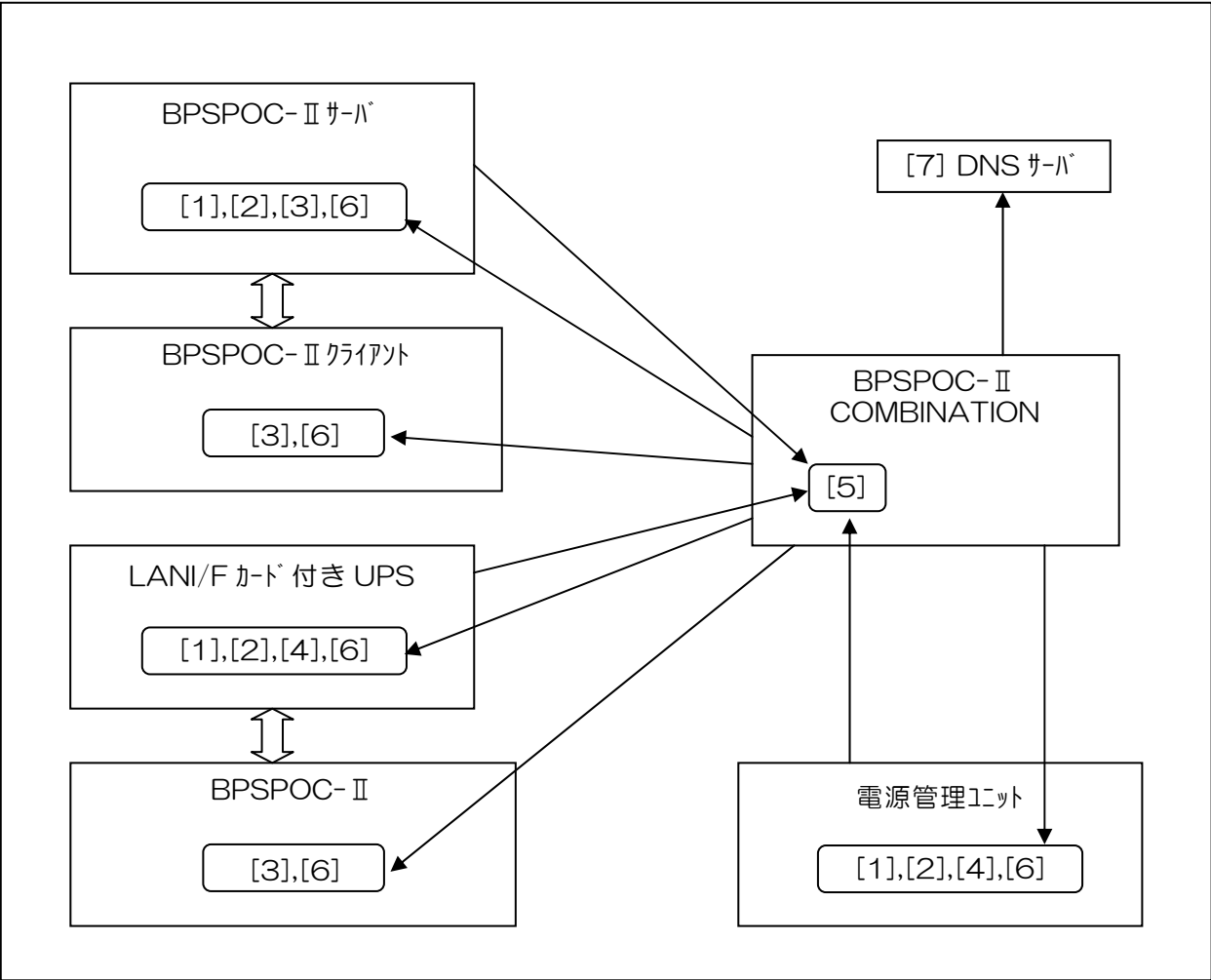
一般ユーザの機能制限を以下に示します。

＜一般ユーザの機能制限＞

メニュー	操作可能	操作不可
ファイル	イベントログファイルを開く 状態・計測値履歴ファイルを開く 統合管理ツールの終了	構成情報読込 構成情報書込
編集	—	登録 削除 切り取り 貼り付け
表示	UPS リアルタイム表示 UPS 状態・計測値履歴表示 イベントログ（UPS/電源管理ユニット）表示 イベントログ（コンピュータ）表示 この配下から情報を更新 最新の情報に更新	—
設定機能	基本設定（表示のみ） イベント設定（表示のみ） スケジュール設定（表示のみ） アカウント認証 時計設定	基本設定（変更） イベント設定（変更） スケジュール設定（変更） プログラム更新
制御機能	—	起動／出力オン 停止／出力オフ／リセット バッテリーチェック開始 バッテリーチェック中止
オプション	ユーザ切替 起動モード	管理者アカウント設定
ヘルプ	目次 トピックの検索 バージョン情報	—

付録D 使用プロトコルおよびサーバポート

以下に BPSPOC-Ⅱ COMBINATION において使用する T C P / U D P のサーバポート、および一般的なプロトコル名を示します



	プロトコル等	ポート番号	概要
[1]	UPS 管理システム	TCP : 30001	各装置の設定 / 制御 / 状態情報収集
[2]		UDP : 30000	装置の検索
[3]		TCP : 31001	接続コンピュータの設定 / 情報収集
[4]		TCP : 30002	プログラム更新
[5]		TCP : 31020 ~ 31029	各装置からの情報通知
[6]	ICMP	—	ping コマンド (echo) による状態チェック
[7]	DNS	—	装置の名称解決 (I P アドレス取得)

付録E Windows ファイアウォール使用時の注意事項

Windows XP Service Pack 2 以降の OS においては、「Windows ファイアウォール」がデフォルトで「有効」になっている場合があります。

「Windows ファイアウォール」が有効の場合、統合管理ツールはネットワーク通信を行うことができなくなります。

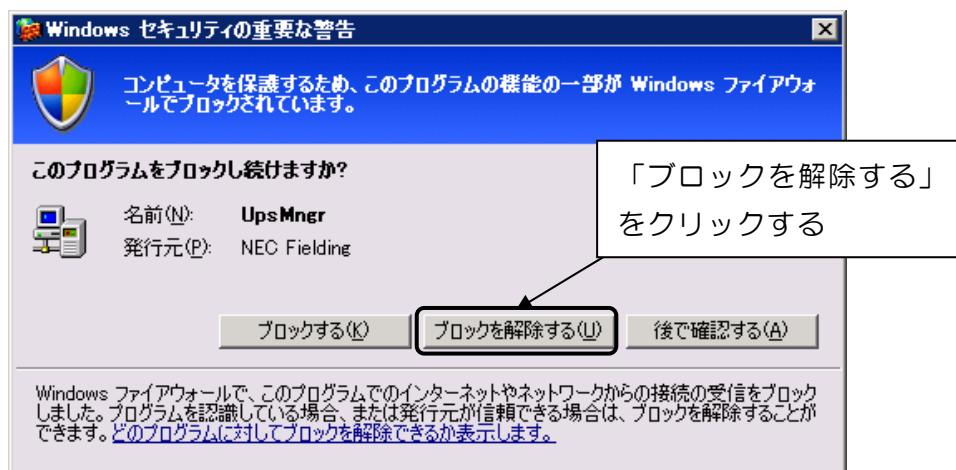
以下の手順に従い、ファイアウォールを通過できる「例外」の設定が必要となります。

<手順>

統合管理ツールを起動すると、以下のメッセージが表示される場合があります。

「ブロックを解除する」を選択してください。

これにより、「UpsMngr」が Windows ファイアウォールの例外に追加されます。



※上記画面は Windows XP のものです。

「ブロックする」または「後で確認する」を選択した場合、あるいは、上記メッセージが表示されなかった場合は、下記の OS 毎の操作手順に従って、Windows ファイアウォールを通過できる「例外」の設定を行ってください。なお、「ブロックを解除する」を選択した場合でも、下記の③の設定は行ってください。

Windows XP、Windows Server 2003の場合

- ① [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [Windowsファイアウォール] を選択します。
- ② Windowsファイアウォール画面の [例外] タブを開き、統合管理ツールのインストールディレクトリにある「UpsMngr.exe」を例外として追加登録します。
(デフォルトインストールディレクトリ C:\Program Files\BPSPOC2\BPSPOC-II COMBINATION)
- ③ Windowsファイアウォール画面の [詳細設定] タブを開き、ICMPの設定ボタンを選択し、「エコー要求の着信を許可する」をチェックして、ICMPの受信を許可します。

Windows Vista、Windows Server 2008以降の場合

- ① [スタート] メニューから [コントロールパネル] – [管理ツール] – [セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] を選択します。
- ② [受信の規則] を右クリックし、[新規の規則] を選択します。規則の種類「プログラム」を選択し、[次へ] をクリックします。[このプログラムのパス] に統合管理ツールのインストールディレクトリにある「UpsMngr.exe」を参照入力し、[次へ] をクリックします。
(デフォルトインストールディレクトリ C:\Program Files\BPSPOC2\BPSPOC- II COMBINATION)
「接続を許可する」を選択し、[次へ] をクリックし、適用するネットワークを選択して、[次へ] をクリックします。
規則の名前（例: BPC-Rule）を入力して、[完了] をクリックします。
- ③ 「受信規則」の中の「ファイルとプリンタの共有（エコー要求 - ICMPv4 受信）」の規則をダブルクリックして、全体タブにある [有効] のチェック・ボックスをオンにして、ICMP の受信を許可します。

付録 F 制約事項

(1) ヘルプ表示について

Windows Vista 以降の OS においては、ヘルプ画面の表示に失敗する場合があります。ヘルプ画面を表示するためには、Windows ヘルププログラム (WinHlp32.exe) を OS にインストールする必要があります。

なお、Windows ヘルプ プログラム (WinHlp32.exe) は、以下のサイトから入手できます。(URL は、2008.7 時点のものです。)

Microsoft サポート オンライン (<http://support.microsoft.com/default.aspx/kb/917607/ja>)

(2) プログラム更新について

Windows Vista 以降の OS においては、メニューバーの [設定] - [プログラム更新] をクリックすると、「プログラム更新ツールの起動に失敗しました。」のダイアログが表示され、プログラム更新ツールが起動しないことがあります。

この場合は、統合管理ツールを一旦終了し、スタートメニューの [BPSPOC- II COMBINATION] を右クリックし、「管理者として実行」を選択して起動してください。

(3) Windows Vista 以降の OS で統合管理ツールを起動した場合のエラー表示 (1)

Windows Vista 以降の OS においては、統合管理ツール起動時に、以下のようなメッセージ画面が表示される場合があります。

“UpsManager は閉じられました”

“状態計測値履歴、リアルタイム表示は閉じられました”

このまま継続使用されても動作上問題はありませんが、メッセージを表示させないためには、OS の「データ実行防止」の設定において、統合管理ツール (UpsMgr.exe、および PRLog.exe) をデータ実行防止の例外に追加します。データ実行防止の例外に追加する方法につきましては、OS 毎の操作手順に従って設定してください。

(4) Windows Vista 以降の OS で統合管理ツールを起動した場合のエラー表示 (2)

Windows Vista 以降の OS においては、統合管理ツール起動時に、OS のイベントビューアに **UpsMngr.exe** または、**PRLog.exe** に対するエラーイベントが記録される場合があります。これは、OS 互換性に関連するものですが、動作上問題はありませんのでそのままご使用ください。